

モクレポ



○関東森林管理局HP「フォトギャラリー」より
「雪晴れに輝く富士山」／奥村 忠充

令和5年1月

No.16

特集

- 林野庁令和5年度予算概算決定及び令和4年度補正予算の概要
- 林野庁令和5年度税制改正事項の概要
- 認定農林水産物・食品輸出促進団体の認定
- ウッドデザイン賞2022上位賞受賞作品決定
- 広がりをもせる森林管理分野のJ-クレジットの取組
- 令和4年度国有林野事業業務研究発表会

このレポートは、木材需給、木材価格、木材産業の動向等に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表するものです。林業・木材産業関係者の事業活動に役立てていただくことを目指しています。

【利用上の注意】

1. 原則として毎月中旬に公表。公表日の5営業日前に入手可能なデータを反映しています。
2. 内容については、必要に応じて項目の追加・削除などの変更を行うことがあります。
3. 調査方法の見直しに伴い、データが接続しない場合があります。

CONTENTS 令和5年1月号

特集

- 1 林野庁令和5年度予算概算決定及び令和4年度補正予算の概要
- 2 林野庁令和5年度税制改正事項の概要
- 3 認定農林水産物・食品輸出促進団体の認定
- 4 ウッドデザイン賞2022上位賞受賞作品決定
- 5 広がりをもせる森林管理分野のJ-クレジットの取組
- 6 令和4年度国有林野事業業務研究発表会

- 特集1
- 特集2
- 特集3
- 特集4
- 特集5
- 特集6

01 基礎的指標

- 1 新設住宅着工戸数
- 2 新設住宅着工床面積 <参考> 非居住用建築物着工床面積
- 3 木材産業の業況
- 4 USドル及びユーロ為替相場
- 5 米国民間新設住宅着工戸数、日本向けコンテナ運賃
- 6 中国の木材輸入量、EUにおける建設活動水準

- 基礎1
- 基礎4
- 基礎8
- 基礎9
- 基礎10
- 基礎11

02 木材価格情報

- 1 スギ・ヒノキ原木の主要市場価格
- 2 木材価格（農林水産統計）

- 価格1
- 価格3

03 木材需給情報

- 1 需要量、供給量、自給率の動向
- 2 製材工場の原木入荷、製品生産等の動向
- 3 合板工場の原木入荷、製品生産等の動向
- 4 チップ工場の原木入荷、製品生産等の動向
- 5 燃料材（国内生産）利用量、紙品種別生産高
- 6 素材生産量
- 7 木材生産の産出額

- 需給1
- 需給4
- 需給5
- 需給6
- 需給7
- 需給8
- 需給9

04 林産物輸出入情報

- 1 林産物輸出額
- 2 木材輸出額
- 3 木材輸入額
- 4 木材輸入量
- 5 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価

- 輸出入1
- 輸出入2
- 輸出入3
- 輸出入4
- 輸出入10

05 特用林産情報

- 1 特用林産物の国内生産量
- 2 特用林産物の産出額
- 3 特用林産物の輸出入量
- 4 特用林産物の輸出額
- 5 中国からのしいたけ菌糸輸入量
- 6 きのこと類の卸売量・価格

- 特産1
- 特産2
- 特産3
- 特産4
- 特産7
- 特産8

06 セミナー・イベント情報

- 1 月中旬以降の開催情報

- イベント1

- 2022年12月23日に令和5年度当初予算が概算決定、また、同年12月2日に令和4年度補正予算（第2号）が成立。
- 令和5年度林野庁関係予算については、令和5年度概算決定額3,057億円（対前年度比102.7%）と、令和4年度補正追加額1,162億円を合わせて、総額4,218億円（前年比141.7%）を計上。重点事項は下表のとおり。

■ 令和5年度 林野庁関係予算の概要

区分	令和4年度 予算額	令和5年度 概算決定額 A	令和4年度 補正追加額 B	A+B
	百万円	百万円	百万円	百万円
公共事業費 (対前年度比)	197,087	197,939 100.4%	93,467	291,406 147.9%
一般公共事業費 (対前年度比)	186,745	187,540 100.4%	69,500	257,040 137.6%
治山事業費 (対前年度比)	62,027	62,291 100.4%	25,600	87,891 141.7%
森林整備事業費 (対前年度比)	124,718	125,249 100.4%	43,900	169,149 135.6%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	10,342	10,399 100.6%	23,967	34,366 332.3%
非公共事業費 (対前年度比)	100,522	107,728 107.2%	22,710	130,437 129.8%
合計 (対前年度比)	297,609	305,667 102.7%	116,177	421,843 141.7%

注1: 林野公共関係予算の総合計は2,634億円(令和5年度当初予算概算決定額として林野公共事業1,875億円、令和4年度補正予算額として林野公共事業695億円のほか、路網の整備・機能強化対策(非公共)64億円(R5当初・R4補正)を措置。)
 2: 上記のほか、農山漁村地域整備交付金及び農山漁村振興交付金に、林野関係事業を措置している。
 3: 金額は、関係ベース。ただし、デジタル庁計上の政府情報システム予算を除く。
 4: 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

■ 令和5年度 林野庁関係予算の重点事項

①森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策等 【5当初:9,756百万円、4補正:49,891百万円の内数】等 カーボンニュートラルを見据えた森林・林業・木材産業によるグリーン成長を実現するため、木材加工流通施設の整備、路網の整備、高性能林業機械の導入、間伐や再造林、都市部における木材利用の強化、輸出を含む新たな需要の創出、「新しい林業」経営モデルの構築、国民運動の展開等、川上から川下までの取組を総合的に支援。	②国内森林資源活用・木材産業国際競争力強化対策 ＜一部公共＞ 【4補正:49,891百万円の内数】 外材の輸入圧に対抗するための木材産業の国際競争力強化及び木材不足・価格高騰（いわゆるウッドショック）の経験を踏まえた国産材のシェア拡大による海外情勢の影響を受けにくい需給構造の構築に向け、生産基盤や製品供給力の強化、国産材の需要拡大、国産木材製品への転換など、川上から川下まで総合的かつ一体的に支援。
③林業デジタル・イノベーション総合対策 【5当初:562百万円】 林業機械の自動化・遠隔操作化や木質系新素材の開発・実証、森林資源情報のデジタル化、ICT等を活用した生産管理の効率化、地域一体となってデジタル技術フル活用する戦略拠点の構築等を支援。	④林業・木材産業における「人への投資」総合対策 【5当初:4,681百万円等、4補正:319百万円】 新規就業者等への体系的な研修、就業前の青年への給付金支給、高校生等の就業体験や女性の活躍、森林プランナーの育成、労働力のマッチング、外国人材の受け入れに向けた条件整備、労働安全対策、森林経営管理制度を担う技術者の育成等、多様な担い手の確保・育成の取組を推進。
⑤森林・山村地域振興対策 【5当初:1,056百万円】 森林の多面的機能の発揮と関係人口の拡大による山村地域の活性化を図るため、地域の活動組織が実施する森林の保全管理、森林資源の利用、新たな森林コンテンツの育成・普及に向けた取組等を支援。	⑥花粉発生源対策推進事業 【5当初:88百万円】 花粉症対策苗木や広葉樹等への植替え、花粉飛散防止剤の実証、スギ雄花の着花状況等の調査の実施とヒノキ雄花の観測精度向上のための調査手法の開発のほか、これらの成果の普及啓発等を一体的に支援。
⑦森林整備事業＜公共＞ 【5当初:125,249百万円、4補正:43,900百万円】 森林吸収量の確保・強化や国土強靱化、林業の持続的発展等のため、間伐の着実な実施に加え、主伐後の再造林、幹線となる林道の開設・改良等を推進。	⑧治山事業＜公共＞ 【5当初:62,291百万円、4補正:25,600百万円】 激化する降水形態や活発化する地震及び火山活動に対応するため、機動的な事業実施等による復旧の加速化・効率化、危険度の高まった地域における事前防災力の向上等を推進。

令和5年度林野庁関係予算の詳細は、次のURLをご覧ください。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/R5kettei.html>

- 2022年12月23日に令和5年度税制改正大綱が閣議決定。林野庁関係事項については、8件の特例措置が延長。
- また、同年12月16日に取りまとめられた与党税制改正大綱において、森林環境税・森林環境譲与税に関する記載がなされた。

<p>① 農林漁業用軽油※に対する石油石炭税(地球温暖化対策のための課税の特例による上乗せ分(760円/KL))の還付措置について、適用期限を3年延長 【石油石炭税】</p> <p>※ 高性能林業機械等の燃料として使用。</p>	<p>② 農林漁業用A重油※1に対する石油石炭税(地球温暖化対策のための課税の特例による上乗せ分を含む。(2,800円/KL))の免税・還付措置※2について、適用期限を5年延長 【石油石炭税】</p> <p>※1 きのご等施設栽培のボイラー等の燃料として使用。 ※2 輸入A重油は免税、国産A重油は還付</p>
<p>③ 中小企業者等※1が機械等※2を取得した場合の特例償却(30%)又は税額控除(7%)[中小企業投資促進税制]について、所要の見直し※3を行った上で、適用期限を2年延長 【所得税・法人税】(経済産業省等4省共管)</p> <p>※1 中小事業者、農業協同組合等(森林組合、森林組合連合会、中小企業等協同組合等を含む) ※2 機械及び装置、測定工具及び検査工具、ソフトウェア、貨物自動車、内航船舶が対象。 ※3 対象資産からコインランドリー業の用に供する機械装置でその管理のおおむね全部を他の者に委託するものを除外等。</p>	<p>④ 中小企業者等※1が特定経営力向上設備等※2を取得した場合の即時償却又は税額控除(10%、資本金3千万円超の法人は7%)[中小企業経営強化税制]について、関係法令の改正を前提とした所要の見直し※3を行った上で、適用期限を2年延長 【所得税・法人税】(経済産業省等4省共管)</p> <p>※1 中小事業者、事業協同組合等を含む(森林組合等は対象外) ※2 機械及び装置、測定工具及び検査工具、器具及び備品、建物附属設備、ソフトウェアが対象。 ※3 対象資産からコインランドリー業等の用に供する資産でその管理のおおむね全部を他の者に委託するものを除外。</p>
<p>⑤ 農業協同組合等※1が農業近代化資金等※2の貸付けを受けて取得した農林漁業経営の近代化又は合理化のための共同利用施設※3に係る課税標準の特例措置(取得価格のうち貸付金相当分を控除、上限1/2)について、適用期限を2年延長 【不動産取得税】</p> <p>※1 森林組合、森林組合連合会、生産森林組合、木材に関する事業を行う事業協同組合を含む。 ※2 林業・木材産業関係では、(株)日本政策金融公庫及び沖縄振興開発金融公庫による貸付資金。 ※3 林業・木材産業関係では、木材加工施設等。</p>	<p>⑥ 農業協同組合等※1が農業近代化資金等※2の貸付けを受けて取得した農林漁業者等の共同利用に供する機械及び装置※3に係る課税標準の特例措置(3年間、課税標準1/2控除)について、適用期限を2年延長 【固定資産税】</p> <p>※1 森林組合、森林組合連合会、協業組合を含む。 ※2 林業・木材産業関係では、林業・木材産業改善資金、(株)日本政策金融公庫及び沖縄振興開発金融公庫による貸付資金。 ※3 林業・木材産業関係では、高性能林業機械、木材加工用機械等。</p>
<p>⑦ 農業信用基金協会等※が受ける抵当権の設定登記等の登録免許税の税率の軽減措置(0.4%→0.15%)について、適用期限を2年延長 【登録免許税】</p> <p>※ (独)農林漁業信用基金を含む。</p>	<p>⑧ 新型コロナウイルス感染症により影響を受けた事業者に対して公的貸付機関等※1又は金融機関※2が行う特別貸付けに係る消費貸借に関する契約書の非課税措置について、適用期限を1年延長 【印紙税】(財務省等5省庁共管)</p> <p>※1 地方公共団体、(株)日本政策金融公庫等 ※2 銀行、信用金庫、農業協同組合等</p>

[与党の令和5年度税制改正大綱に記載された事項]

(令和5年度税制改正大綱(令和4年12月16日自由民主党・公明党)抜粋)

第一 令和5年度税制改正の基本的考え方等

2. 経済のグローバル化・デジタル化・グリーン化への対応
- (5) 森林環境税・森林環境譲与税

森林環境税及び森林環境譲与税は、森林の有する地球温暖化防止や災害防止等の公益的機能を維持・増進するために創設され、令和6年度に課税が開始される。全国の地方公共団体において、譲与税を森林整備や木材利用等に一層有効に活用し、国民の理解を深めていくことが重要であることを踏まえ、各地域における取組みの進展状況や地方公共団体の意見を考慮しつつ、森林整備をはじめとする必要な施策の推進につながる方策を検討する。

税制の概要につきましては、次のURLをご覧ください。

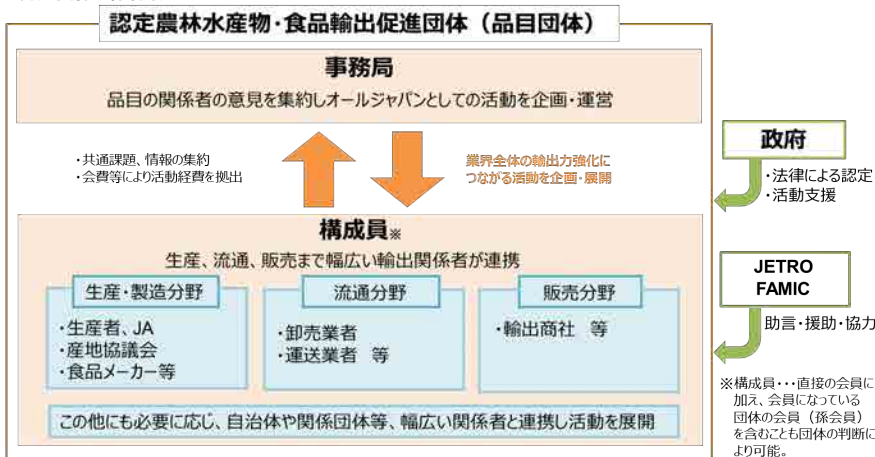
<https://www.maff.go.jp/j/aid/zeisei/rin/index.html> (①～⑦関係)

<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/kansensho/keizaitaisaku/inshi/index.htm> (⑧関係)

https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/kankyousei_jouyouzei.html (森林環境税・森林環境譲与税関係)

- 「農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律」に基づき、農林水産物・食品輸出促進団体（いわゆる品目団体）の第一弾として、2022年10月に（一社）日本木材輸出振興協会が製材・合板の輸出を推進する団体として認定。
- 同協会では、展示会等を通じた販売促進活動や、輸出品質ガイドラインの策定等を行っており、今後も同協会を中心として、オールジャパンでの輸出促進に向け業界共通の課題解決に向けた取組や海外における販路開拓等を促進。

<認定団体の体制イメージ>



認定式の様子（2022年12月）

認定団体（日本木材輸出振興協会）の概要

概要及び設立時期

当該協会は、林業事業体、製材等の製造業者、流通業者、輸出商社、森林・木材関係の全国業界組織、自治体等で構成される協議会。日本木材輸出振興協議会（2004年3月設立）を母体に、2011年1月26日に設立。

目的

- 国産材（国内で生産された丸太、加工品及び木造住宅部材等）の輸出を振興するため、
- ① 国産材の輸出拡大に資するための相手国のニーズにあった木材加工技術の調査及び開発等による需要開発
 - ② 輸出に関する国内外の関連情報の収集及び調査研究
 - ③ 輸出拡大に必要なセミナー、講習会の開催等を実施する。

主な取組

海外における販路開拓活動

- ・ 会員企業を取りまとめて、中国、台湾、韓国、ベトナム等の展示会等に出展
- ・ 海外において日本木材の利用を促進するため、現地関係者向けのセミナーを開催



KYUNGHYANG HOUSING FAIR（韓国ソウル）に出展した様子（2021年11月）

業界共通の課題解決に向けた取組

- ・ 輸出先国の市場ニーズや規格規制情報の提供を行うため、国内でセミナーを開催
- ・ 輸出用ラッピングシートの開発・普及

輸出ターゲット国の市場・規制調査

- ・ 中国、韓国、台湾、米国における木材需給や日本産木材の利用実態・ポテンシャル、住宅用構造材に求められる品質基準等を調査



国内セミナーの開催（北海道）（2022年9月）

- 第8回目となるウッドデザイン賞2022※では全国各地から330点の応募があり、188点が入賞に当たる「ウッドデザイン賞」を受賞。
- この中から、最優秀賞（農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞）各1点、優秀賞（林野庁長官賞）9点、奨励賞（審査委員長賞）15点を選定。

※(一社)日本ウッドデザイン協会主催

【最優秀賞】

農林水産大臣賞

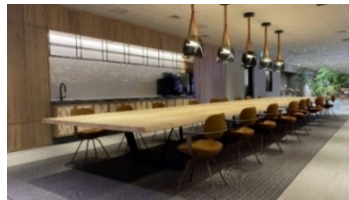
MOKUWELL HOUSE
MEC Industry(株)



地域密着型のサプライチェーンによる木造のプレファブリック住宅。高品質と低価格の両立、地域材の高付加価値化を図るとともに、木の魅力を存分に味わえる空間を提供。

経済産業大臣賞

ワーカーのウェルビーイングな働き方をサポートするビッグテーブル「シルタ」
(株)イトーキ



複合材を天板内に収納して軽量化と強度を確保しつつ、本物の無垢の木の質感が味わえる。また、木のぬくもりによるストレス軽減や、集中力向上の効果も併せて実証。

国土交通大臣賞

HULIC & New GINZA 8

(株)竹中工務店、ヒューリック(株)ほか



シンボリックな木造建築が多くの人の目に触れる都市部に建ち、その価値や魅力を発信。都市における木材利用による炭素固定を促すモデルの先導例。

環境大臣賞

SANU 2nd Home

(株)Sanu ほか



極力、釘やビスを使わないことで解体しやすく、収益の一部で植林を行うなど、サーキュラー型建築を実現。サブスク型で、これまでに群馬、山梨、長野に50棟を開設。

【優秀賞】

【ライフスタイルデザイン部門】



シェルターインクルーシブプレイス コパル
(山形市南部児童遊戯施設)／山形市 ほか



木製浮き基礎工法／越井木材工業(株)



Do kit yourself 家具キット／(株)維鶴木工

【ハートフルデザイン部門】



Port Plus大林組横浜研修所
／(株)大林組



禅坊 靖寧(淡路市)／(株)坂茂建築設計 ほか

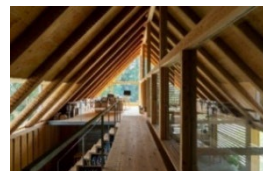


木製自転車スポーツタイプ TR-S型 E-Thruタイプ
／カネモク工業(株)

【ソーシャルデザイン部門】



みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション
「きとね」／南会津町



バウマスターの家(富士宮市)
／(株)平成建設 ほか



森への入り口をお届けします～森デリバリー～
／(株)東京チェーンソーズ

受賞作品の詳細については、下記のURLをご覧ください。
<https://www.wooddesign.jp/pdf/pressrelease1109.pdf>



- J-クレジット制度は、森林管理による温室効果ガスの吸収量や再エネ利用による削減量等を国が「クレジット」として認証する制度。
- 排出事業者からカーボンオフセットとして森林由来のクレジットに対する期待が高まるほか、昨年8月の森林管理分野に係るJ-クレジットの大幅な制度改正等も後押しとなり、地方自治体や民間企業による新たな取組が全国各地で始まっており、その中で今年度注目の動きを紹介。

1 令和4年度のプロジェクト新規登録件数は過去最大

森林プロジェクトは令和3年度末時点で累計51件の登録（J-VER移行分を除く）で、単年度では令和3年度の14件が最多だったところ、令和4年度は第53回認証委員会（2023年1月13日）までに既に17件の新規登録があり、単年度ベースでは過去最高を記録（同年3月15日の第54回認証委員会でさらに増加見込）。

(1) 林業公社による認証見込量10万トンを超えるメガプロジェクト登録の拡大

熊本県林業公社は第50回認証委員会（2022年6月30日）において、認証見込量約11万CO₂トンのプロジェクトを登録。

おかやまの森整備公社と三井物産は2022年8月30日にJ-クレジット創出業務委託契約を締結し、第53回認証委員会においてプロジェクトを登録。認証見込量は約96万CO₂トン。

秋田県林業公社と三井物産は2022年11月4日に「J-クレジット共同創出事業業務委託契約」を締結し、林業公社が管理する森林で、森林クレジットの創出に取り組むことを表明。

エネオスは、久万高原町に続き、新たに**新潟県農林公社**と協定を結び、年間1万トンの森林クレジット創出に取り組むことを2022年11月25日に公表。

(2) 新しい手法を活用したプロジェクト

① 航空レーザ計測を活用したモニタリングによる国内初のクレジット取得

日本製紙株式会社は、静岡県と「先端技術の林業現場への実装に関する連携協定」を締結し、静岡県の社有林で実施しているプロジェクトにおいて、航空レーザ計測・解析などの公共測量データを活用。第51回認証委員会（2022年9月16日）において、航空レーザ測定による地位の特定方法で国内初のクレジット取得。

北海道庁は、「ゼロカーボン北海道」達成に向けて、民間企業と連携し、道有林の一部において航空レーザを活用した森林由来クレジット創出を試行的に実施する「道有林J-クレジット創出事業」を開始。2030年までに道有林クレジット累計60万CO₂トンの創出を見込む。

② 森林経営管理制度を活用した国内初のプロジェクト登録

松阪市（三重県）は、経営管理権を設定した森林において新たに森林経営計画を作成して、J-クレジットのプロジェクトを申請。第52回認証委員会（2022年10月31日）において登録。

2 多様な主体によるプロジェクト組成の取組

(1) 森林組合系統でのJ-クレジットの取組強化に向けて全国森林組合連合会等がサポート開始

全国森林組合連合会と**農林中央金庫**は、日本オフセットデザイン創研協力のもと「森林由来クレジットにおける連携協定」を締結し、森林組合系統向けにJ-クレジットの組成から販売に至る取組みをサポートするプラットフォームを立ち上げる（2023年1月13日付ニュースリリース）

(2) 林業セクター以外の企業による森林プロジェクト組成への参画の拡大

東急不動産ホールディングスは、長野県茅野市に所在する「東急リゾートタウン蓼科」において、持続可能な地域循環のサイクルを推進するプロジェクトの一環として、総合デベロッパーとしては初となる森林プロジェクトの登録（2022年7月7日付同社ニュースリリース）。

長瀬産業は、高知県梶原町と協定を締結し、森林クレジット創出の実証を開始。自社のカーボンニュートラル達成はもとより、森林クレジット創出の支援や、地域社会や林業への価値提供を目的としたソリューション開発を目指す（2022年8月26日付同社ニュースリリース）

損害保険ジャパン株式会社は、九州大学と連携し、自然資本を活用したCO₂削減の拡大を目指したソリューションの検討を行い、第一弾として、ボランタリークレジット市場で国内初となる森林由来のカーボンクレジットに関する補償の提供を開始（2022年12月15日付同社ニュースリリース）

J-クレジット制度の森林管理プロジェクトについては、次のURLもご参照ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html

- 全国で国有林野の管理経営に携わる林野庁職員が、業務の実行を通じて取り組んだ技術開発等の成果を広く普及するため、2022年11月24日に「令和4年度国有林野事業業務研究発表会」を開催。
- 各部門について林野庁長官賞（最優秀賞及び優秀賞）その他団体賞を授賞。
- 林野庁長官賞（最優秀賞）は、以下の発表課題が受賞。

■各部門の発表課題数

- **森林技術部門**
効率的な森林整備、先端技術の活用、治山工事での監督業務での工夫等の取組 【9課題】
- **森林ふれあい・地域連携部門**
地域と連携した森林づくりの取組、レクリエーションの森の利用推進等の取組 【8課題】
- **森林保全部門**
病虫害対策、保護林等多様な森林生態系の適切な保全部門等の取組 【6課題】

■各部門の林野庁長官賞(最優秀賞)

《森林技術部門》

■治山事業におけるICT活用の取組について
～遠隔臨場の実施～

近畿中国森林管理局
山本 康二、山本 雅志

工事現場の監督職員と受注者がウェアラブルカメラ等による映像と音声の双方向通信（遠隔臨場）を実施し、監督業務の確認頻度の増加、業務のサポート体制の強化や業務効率化の効果を確認した。



遠隔臨場の様子

《森林ふれあい・地域連携部門》

■森林や林業に対する意識の変容と教育内容の検討～青森市と外ヶ浜町の小中学生を対象とした森林教室を通して～

東北森林管理局
齋 つかさ

管内で実施した森林環境教育のイベントに参加した小中学生に対して、実施前後にアンケートをとり、参加者に与えた影響を調べた。また、調査結果を基に、より良いイベントとなるよう教育内容を検討した。



参加者体験型の紙芝居を用いた森林教室の様子

Q1. 本日の授業内容について、どのようでしたか。それ以外あるべき事項を欄に記入してください。(自由回答)

	非常に満足	満足	やや満足	満足しない
講へ行くことができた	1	3	4	
講へ行くことができた	1	2	4	
講へ行くことができた	1	2	4	
自然の生態の理解が深まった	1	2	4	
森林や自然の大切さを改めて学べた	1	2	4	
森林や自然の大切さを改めて学べた	1	2	4	
森林の大切さを改めて学べた	1	2	4	
森林の大切さを改めて学べた	1	2	4	

アンケート調査用紙(抜粋)

《森林保全部門》

■民国連携に向けたシカ捕獲圧の強化について

九州森林管理局
渡邊 昭伍、川原 博

ICTを利用した長距離無線捕獲システム「ほかパト」を導入しシカ捕獲を検証した結果、業務負担の低減や業務の効率化に繋がったことから、今後、地方自治体や猟友会等への技術の提供等を行い、民国連携したシカ捕獲の取り組みを行っていくことを報告した。



職員によるシカ捕獲研修



「ほかパト」親機設置作業



大分西部署のシカ捕獲頭数

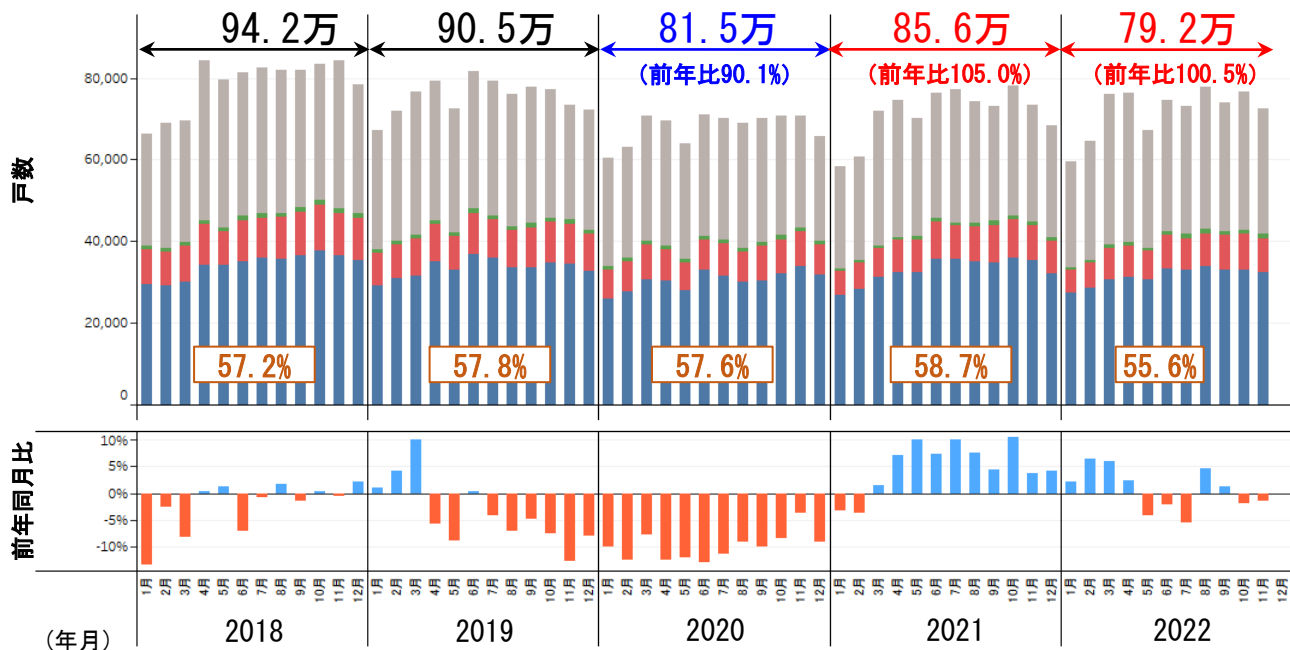
国有林野事業業務研究発表会の詳細は、次のURLをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/gyoumu/gi_jutu/kenkyu_happyo/index.html



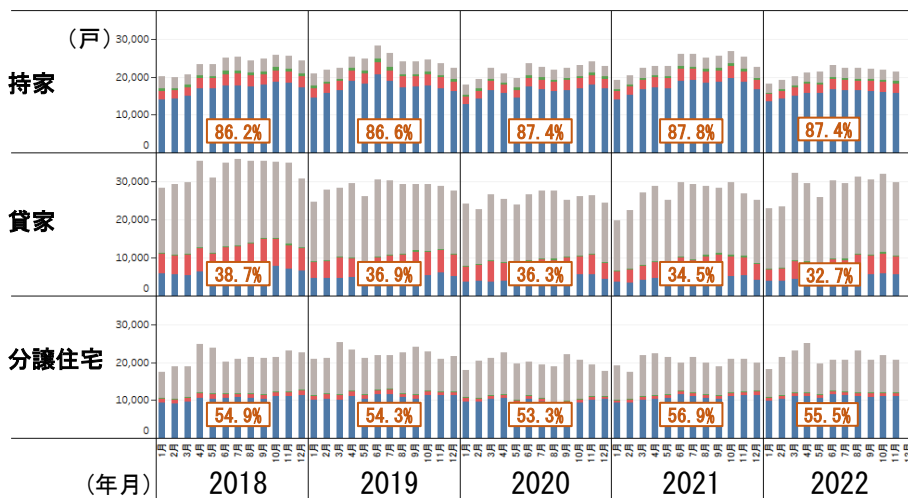
基礎的指標-1 新設住宅着工戸数

- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）
- 2022年1～11月の新設住宅着工戸数は、79.2万戸（前年同期比100.5%）、このうち木造住宅は44.1万戸（同95.5%）。



(単位：戸)

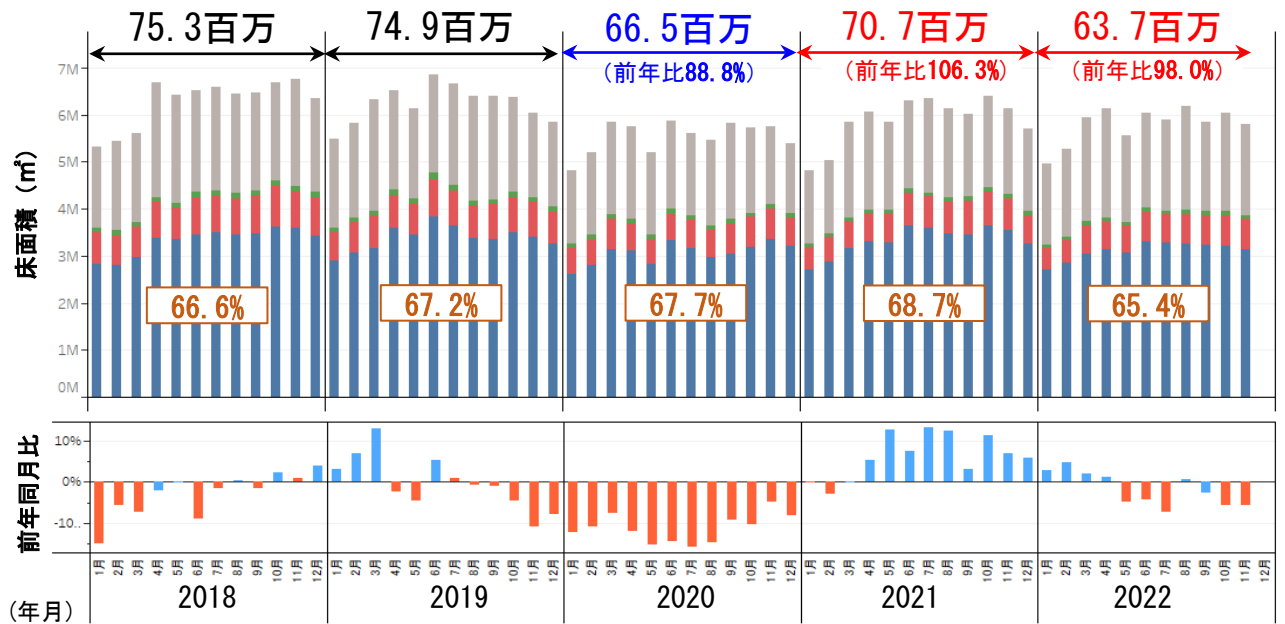
構造別の着工戸数	2022年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	792,280	788,091	100.5%	749,697	105.7%
■非木造	351,775	326,621	107.7%	320,609	109.7%
木造	440,505	461,470	95.5%	429,088	102.7%
■木造プレハブ	9,309	9,685	96.1%	9,918	93.9%
■2×4	84,111	88,202	95.4%	85,441	98.4%
■在来軸組	347,085	363,583	95.5%	333,729	104.0%
□木造率	55.6%	58.6%		57.2%	



資料：国土交通省「住宅着工統計」

基礎的指標 - 2 新設住宅着工床面積

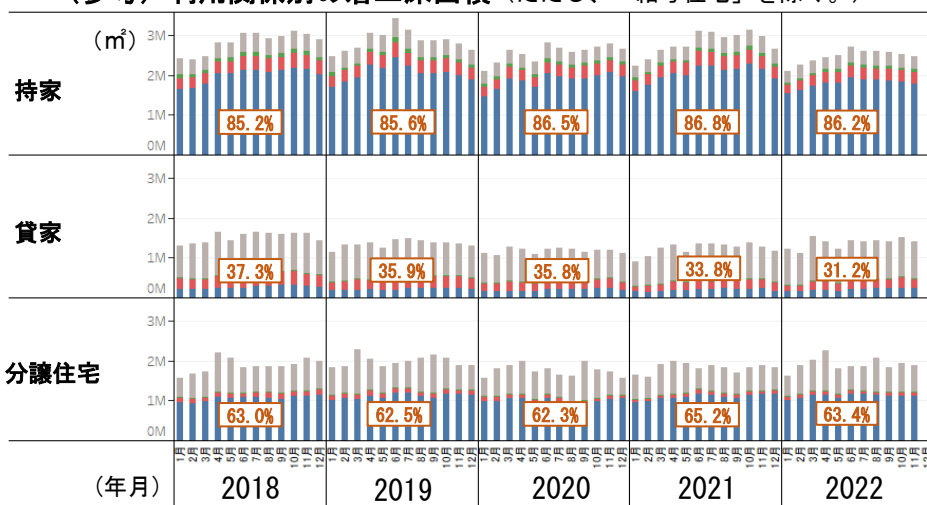
- 2021年の新設住宅着工床面積は、70.7百万㎡（前年比106.3%）、このうち木造住宅は48.6百万㎡（同107.9%）。
- 2022年1～11月の新設住宅着工床面積は、63.7百万㎡（前年同期比98.0%）、このうち木造住宅は41.6百万㎡（同93.3%）。



(単位：千㎡)

構造別の 着工床面積	2022年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	63,682	64,964	98.0%	61,069	104.3%
■ 非木造	22,040	20,352	108.3%	19,976	110.3%
■ 木造	41,641	44,611	93.3%	41,093	101.3%
■ 木造プレハブ	920	986	93.3%	1,017	90.4%
■ 2×4	6,465	6,911	93.5%	6,523	99.1%
■ 在来軸組	34,256	36,714	93.3%	33,552	102.1%
□ 木造率	65.4%	68.7%		67.3%	

(参考) 利用関係別の着工床面積 (ただし、「給与住宅」を除く。)



資料：国土交通省「住宅着工統計」

<参考>非居住用建築物着工床面積

(単位:千㎡、%)

年次	月	合計		構造別			
				木造		非木造	
		前年比	前年比	前年比	前年比		
2019年	1	3,970	101	259	84	3,711	102
	2	3,700	85	243	96	3,457	84
	3	3,334	81	294	105	3,040	79
	4	4,440	96	354	105	4,085	95
	5	4,170	99	327	103	3,844	99
	6	4,641	102	377	102	4,264	102
	7	4,980	100	452	122	4,527	99
	8	3,987	95	479	131	3,508	91
	9	3,609	82	431	96	3,179	80
	10	3,922	85	409	99	3,513	84
	11	3,750	90	386	102	3,364	89
	12	4,184	97	330	92	3,854	98
2020年	1	2,973	75	228	88	2,745	74
	2	3,605	97	230	95	3,374	98
	3	3,718	112	280	95	3,437	113
	4	4,086	92	312	88	3,774	92
	5	4,078	98	259	79	3,818	99
	6	3,798	82	347	92	3,451	81
	7	3,855	77	323	71	3,532	78
	8	3,662	92	371	77	3,291	94
	9	3,891	108	416	97	3,476	109
	10	3,635	93	400	98	3,235	92
	11	3,371	90	346	90	3,025	90
	12	3,565	85	308	93	3,257	85
2021年	1	3,364	113	246	108	3,118	114
	2	3,345	93	241	105	3,104	92
	3	4,272	115	287	103	3,984	116
	4	4,207	103	347	111	3,861	102
	5	4,277	105	307	119	3,970	104
	6	4,275	113	327	94	3,948	114
	7	4,082	106	344	107	3,738	106
	8	3,127	85	299	81	2,828	86
	9	3,700	95	307	74	3,394	98
	10	5,328	147	341	85	4,987	154
	11	3,737	111	293	85	3,444	114
	12	4,747	133	281	91	4,465	137
2022年	1	3,237	96	214	87	3,023	97
	2	3,711	111	223	93	3,488	112
	3	3,627	85	244	85	3,384	85
	4	4,866	116	285	82	4,581	119
	5	3,920	92	318	104	3,602	91
	6	4,788	112	349	107	4,438	112
	7	4,983	122	346	101	4,637	124
	8	3,980	127	327	109	3,653	129
	9	3,589	97	354	115	3,236	95
	10	3,599	68	300	88	3,299	66
	11	3,512	94	299	102	3,213	93
2019年計		48,687	93	4,341	103	44,346	92
2020年計		44,237	91	3,820	88	40,415	91
2021年計		48,461	110	3,620	95	44,841	111
2019年	第1四半期	11,004	89	796	94	10,208	88
	第2四半期	13,251	99	1,058	103	12,193	99
	第3四半期	12,576	93	1,362	115	11,214	90
	第4四半期	11,856	91	1,125	98	10,731	90
2020年	第1四半期	10,296	94	738	93	9,556	94
	第2四半期	11,962	90	918	87	11,043	91
	第3四半期	11,408	91	1,110	81	10,299	92
	第4四半期	10,571	89	1,054	94	9,517	89
2021年	第1四半期	10,981	107	774	105	10,206	107
	第2四半期	12,759	107	981	107	11,779	107
	第3四半期	10,909	96	950	86	9,960	97
	第4四半期	13,812	131	915	87	12,896	136
2022年	第1四半期	10,575	96	681	88	9,895	97
	第2四半期	13,574	106	952	97	12,621	107
	第3四半期	12,552	115	1,027	108	11,526	116

資料：国土交通省「建築着工統計調査報告」

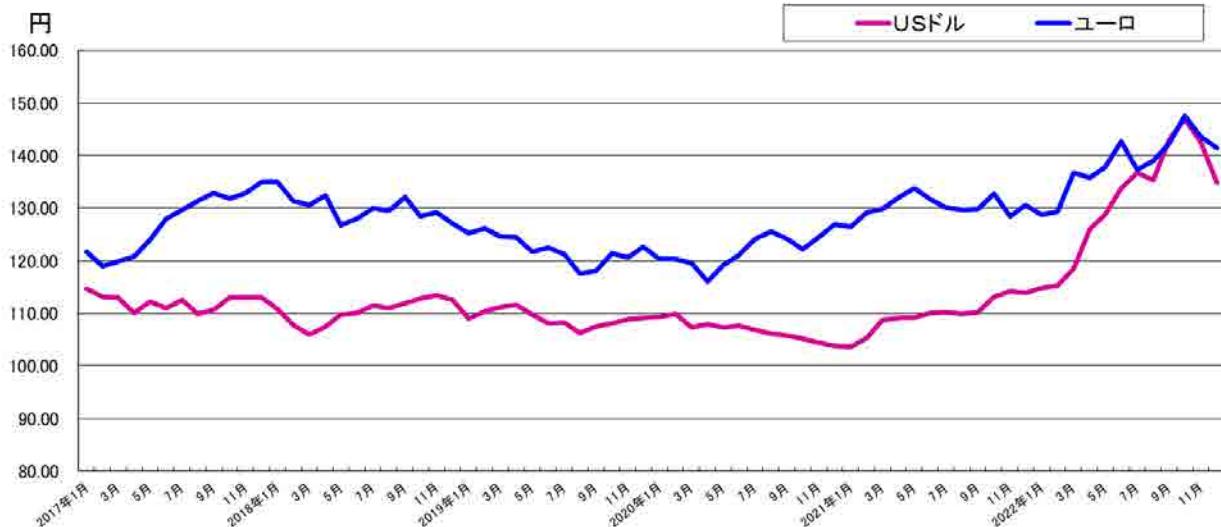
基礎的指標-3 木材産業の業況

- 2021年は、木材産業の倒産件数が19件（前年比70.3%）、負債金額が4,313百万円（同112.0%）。
- 2022年1～11月は、木材産業の倒産件数が12件（前年同期比66.7%）、負債金額が7,314百万円（同173.6%）。

年・月		企業倒産状況							
		全 企 業				木材・木製品業			
		件数 (件)	前年 比(%)	負債金額 (百万円)	前年 比(%)	件数 (件)	前年 比(%)	負債金額 (百万円)	前年 比(%)
2019年	1	666	105	169,374	161	0	-	0	-
	2	589	95	195,534	217	1	100	10	2
	3	662	84	97,114	73	1	33	532	51
	4	645	99	106,916	112	2	50	797	111
	5	695	91	107,465	103	3	100	795	313
	6	734	106	86,957	40	1	25	59	8
	7	802	114	93,400	83	5	500	347	694
	8	678	98	87,149	72	3	300	278	150
	9	702	113	112,985	61	6	300	959	3,197
	10	780	107	88,578	75	2	100	91	1
	11	727	101	122,452	101	2	200	470	904
	12	704	113	156,864	192	4	200	543	32
2020年	1	773	116	124,734	74	0	-	0	-
	2	651	111	71,283	36	0	-	0	-
	3	740	112	105,949	109	1	100	300	56
	4	743	115	144,990	136	10	500	1,280	161
	5	314	45	81,336	76	2	67	320	40
	6	780	106	128,816	148	4	400	444	753
	7	789	98	100,821	108	1	20	89	26
	8	667	98	72,416	83	2	67	150	54
	9	565	80	70,740	63	1	17	637	66
	10	624	80	78,342	88	2	100	57	63
	11	569	78	102,101	83	3	150	550	117
	12	558	79	138,518	88	1	25	25	5
2021年	1	474	61	81,388	65	2	-	180	-
	2	446	69	67,490	95	0	-	0	-
	3	634	86	141,453	134	3	300	327	109
	4	477	64	84,098	58	4	40	50	4
	5	472	150	168,664	207	1	50	120	38
	6	541	69	68,566	53	5	125	3,296	742
	7	476	60	71,465	71	0	-	0	-
	8	466	70	90,973	126	1	50	10	7
	9	505	89	90,860	128	2	200	230	36
	10	525	84	98,464	126	0	-	0	-
	11	510	90	94,101	92	0	-	0	-
	12	504	90	93,181	67	1	100	100	400
2022年	1	452	95	66,940	82	1	50	13	7
	2	459	103	70,989	105	0	-	0	-
	3	593	94	169,673	120	4	133	2,010	615
	4	486	102	81,253	97	2	50	2,900	5,800
	5	524	111	87,380	52	1	100	180	150
	6	546	101	1,232,583	1,798	0	-	0	-
	7	494	104	84,570	118	0	-	0	-
	8	492	106	111,428	122	1	100	1,880	18,800
	9	599	119	144,871	159	1	50	45	20
	10	596	114	86,995	88	1	-	200	-
	11	581	114	115,589	123	1	-	86	-
2019年計		8,384	102	1,423,788	96	30	115	4,881	40
2020年計		7,773	93	1,220,046	86	27	90	3,852	79
2021年計		6,030	78	1,150,703	94	19	70	4,313	112
2019年	第1四半期	1,917	94	461,022	141	2	33	542	33
	第2四半期	2,074	98	301,338	72	6	55	1,651	99
	第3四半期	2,182	108	293,534	70	14	350	1,584	598
	第4四半期	2,211	107	367,894	115	8	160	1,104	13
2020年	第1四半期	2,164	113	301,966	65	1	50	300	55
	第2四半期	1,837	89	355,142	118	16	267	2,044	124
	第3四半期	2,021	93	243,977	83	4	29	876	55
	第4四半期	1,751	79	318,961	87	6	75	632	57
2021年	第1四半期	1,554	72	290,331	96	5	500	507	169
	第2四半期	1,490	81	321,328	90	10	63	3,466	170
	第3四半期	1,447	72	253,298	104	3	75	240	27
	第4四半期	1,539	88	285,746	90	1	17	100	16
2022年	第1四半期	1,504	97	307,602	106	5	100	2,023	399
	第2四半期	1,556	104	1,401,216	436	3	30	3,080	89
	第3四半期	1,585	110	340,869	135	2	67	1,925	802

資料：東京商工リサーチ「TSR情報（全国企業倒産状況）」

- 2022年12月の為替相場は、1ドル134.93円、1ユーロ141.47円。



(単位:円)

年月	USドル	ユーロ
2017年1月	114.73	121.75
2月	113.06	118.98
3月	113.01	119.79
4月	110.06	120.85
5月	112.21	123.95
6月	110.91	127.97
7月	112.44	129.65
8月	109.91	131.34
9月	110.68	132.85
10月	112.96	131.76
11月	112.92	132.81
12月	112.97	134.94
2018年1月	110.77	135.08
2月	107.82	131.28
3月	106.00	130.52
4月	107.43	132.39
5月	109.69	126.73
6月	110.03	127.91
7月	111.37	129.93
8月	111.06	129.56
9月	111.89	132.14
10月	112.78	128.43
11月	113.37	129.19
12月	112.45	127.00
2019年1月	108.95	125.15
2月	110.36	126.09
3月	111.21	124.56
4月	111.66	124.38
5月	109.83	121.74
6月	108.06	122.49
7月	108.22	121.19
8月	106.27	117.63
9月	107.41	118.02
10月	108.12	121.46
11月	108.86	120.59
12月	109.18	122.54

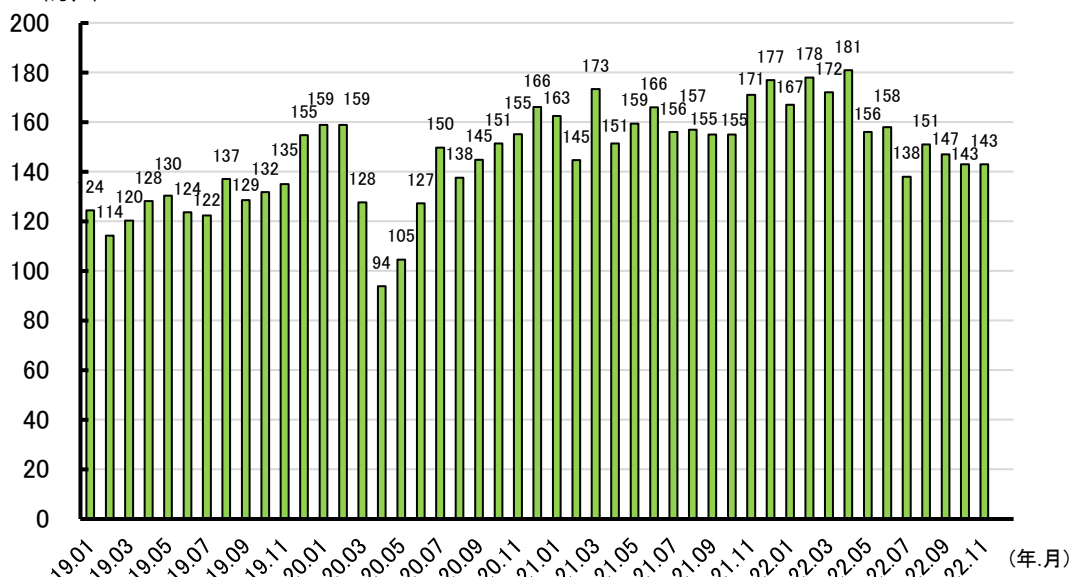
(単位:円)

年月	USドル	ユーロ
2020年1月	109.34	120.30
2月	109.96	120.32
3月	107.29	119.55
4月	107.93	116.00
5月	107.31	119.13
6月	107.56	121.08
7月	106.78	124.13
8月	106.04	125.47
9月	105.74	124.17
10月	105.24	122.14
11月	104.40	124.38
12月	103.82	126.95
2021年1月	103.70	126.48
2月	105.36	129.15
3月	108.65	129.80
4月	109.13	131.99
5月	109.19	133.74
6月	110.11	131.58
7月	110.29	130.11
8月	109.84	129.69
9月	110.17	129.86
10月	113.10	132.77
11月	114.13	128.41
12月	113.87	130.51
2022年1月	114.83	128.66
2月	115.20	129.34
3月	118.51	136.70
4月	126.04	135.83
5月	128.78	137.76
6月	133.86	142.67
7月	136.63	137.25
8月	135.24	139.03
9月	143.14	142.32
10月	147.01	147.59
11月	142.44	143.58
12月	134.93	141.47

資料：USドルは日銀 主要時系列統計データ表 為替相場（東京市場 スポットレート 中心相場 月平均）、ユーロは日銀「金融経済統計月報」対顧客為替相場。

- 米国の住宅着工戸数(戸建て計)は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落した。その後、コロナ禍による在宅需要の増加と住宅ローンの低金利により、2020年5月から増加傾向が続き、2022年4月には181万戸(年率換算)を記録。2022年5月からは、住宅ローン金利が急騰したことにより、下落傾向が続き、2022年11月は前月比増減なしの143万戸となった。
- 世界的なコンテナ不足により、海上輸送運賃が急激に上昇。日本向けコンテナ運賃は、2020年11月頃から急上昇し、その後は欧州発、米国発ともに高値を維持していたが、2022年7月以降は下落傾向が続いている。

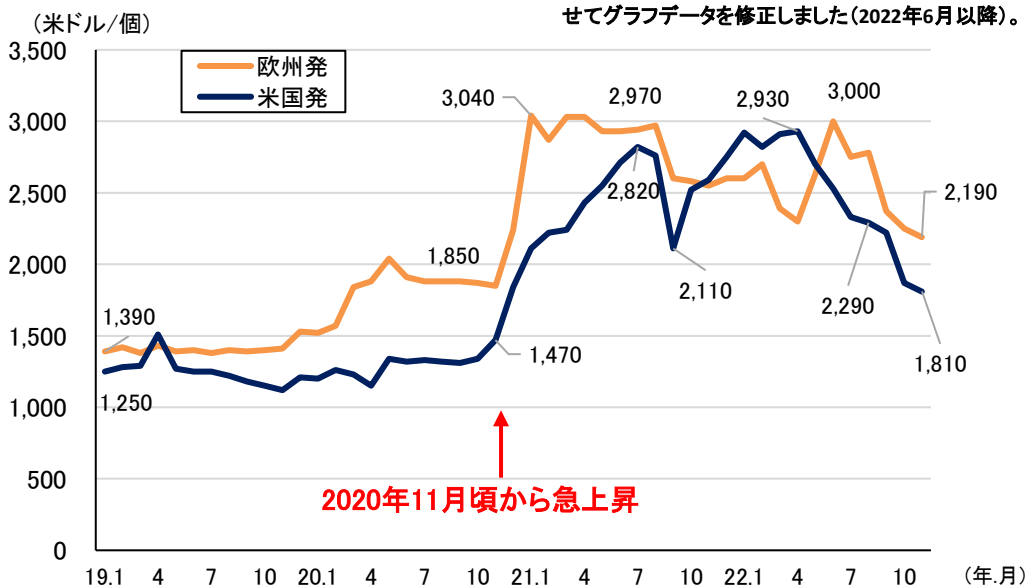
○米国における住宅着工戸数
(万戸)



資料：(住宅着工戸数)米国商務省「住宅着工統計」(季節調整済み、年率換算、戸建て計)

○日本向けコンテナ運賃の推移

※出典元のDrewry社集計データの一部(2021年8月~2022年6月の欧州発コンテナ運賃)が修正されたため、それに併せてグラフデータを修正しました(2022年6月以降)。



注：40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。

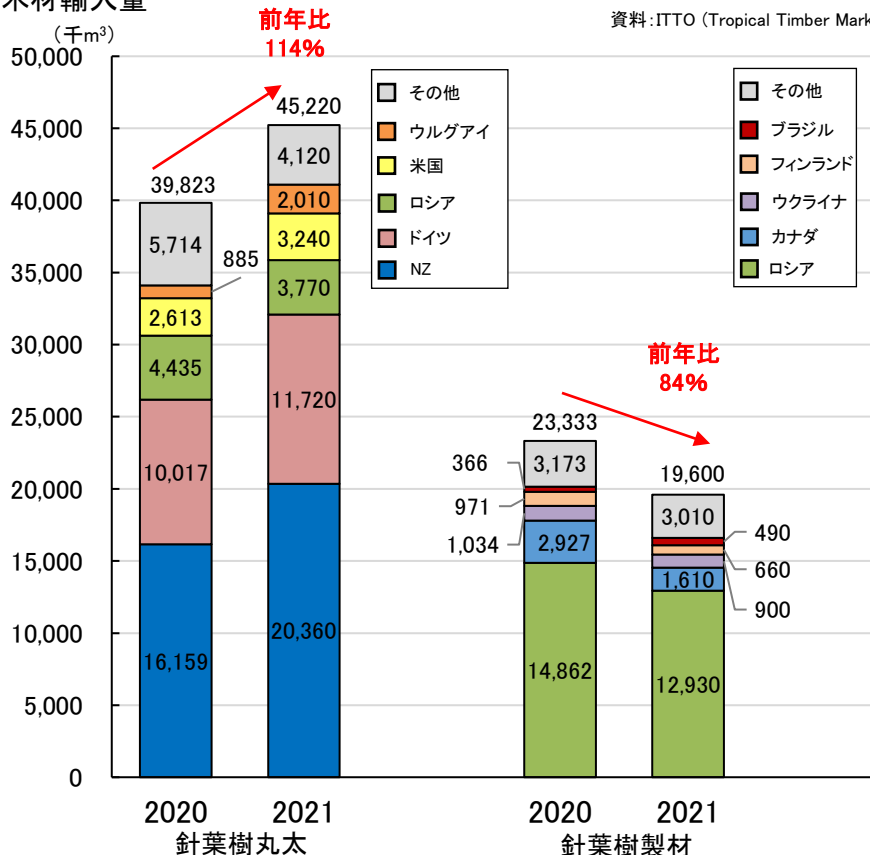
出典：Drewry「Container Freight Rate Insight」

資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

- 中国では、木材需要が継続して増加。2021年の針葉樹丸太輸入量は、前年同期比114%の4,522万m³。一方、針葉樹製材輸入量は、前年同期比84%の1,960万m³。木材輸入の形態が製材から丸太へシフト。
- EUでは、コロナ禍により、2020年春に建設活動が急激に低下したが、同年夏以降は回復して、以後、堅調に推移。

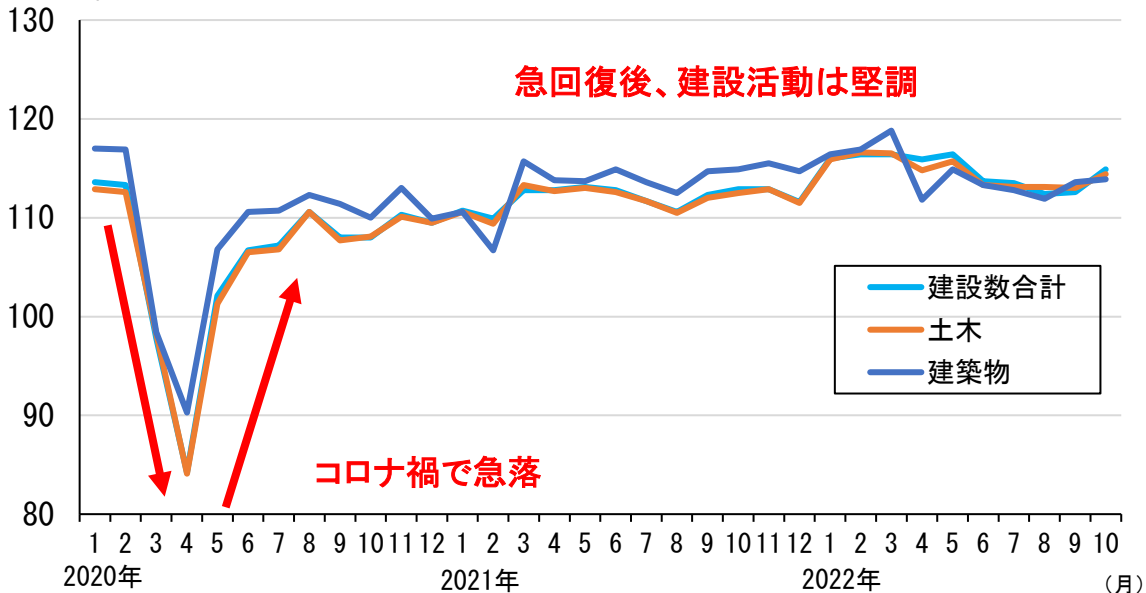
○中国の木材輸入量

資料:ITTO (Tropical Timber Market Report, Vol.26 (3) (5))



○EUにおける建設活動水準 (2015年比)

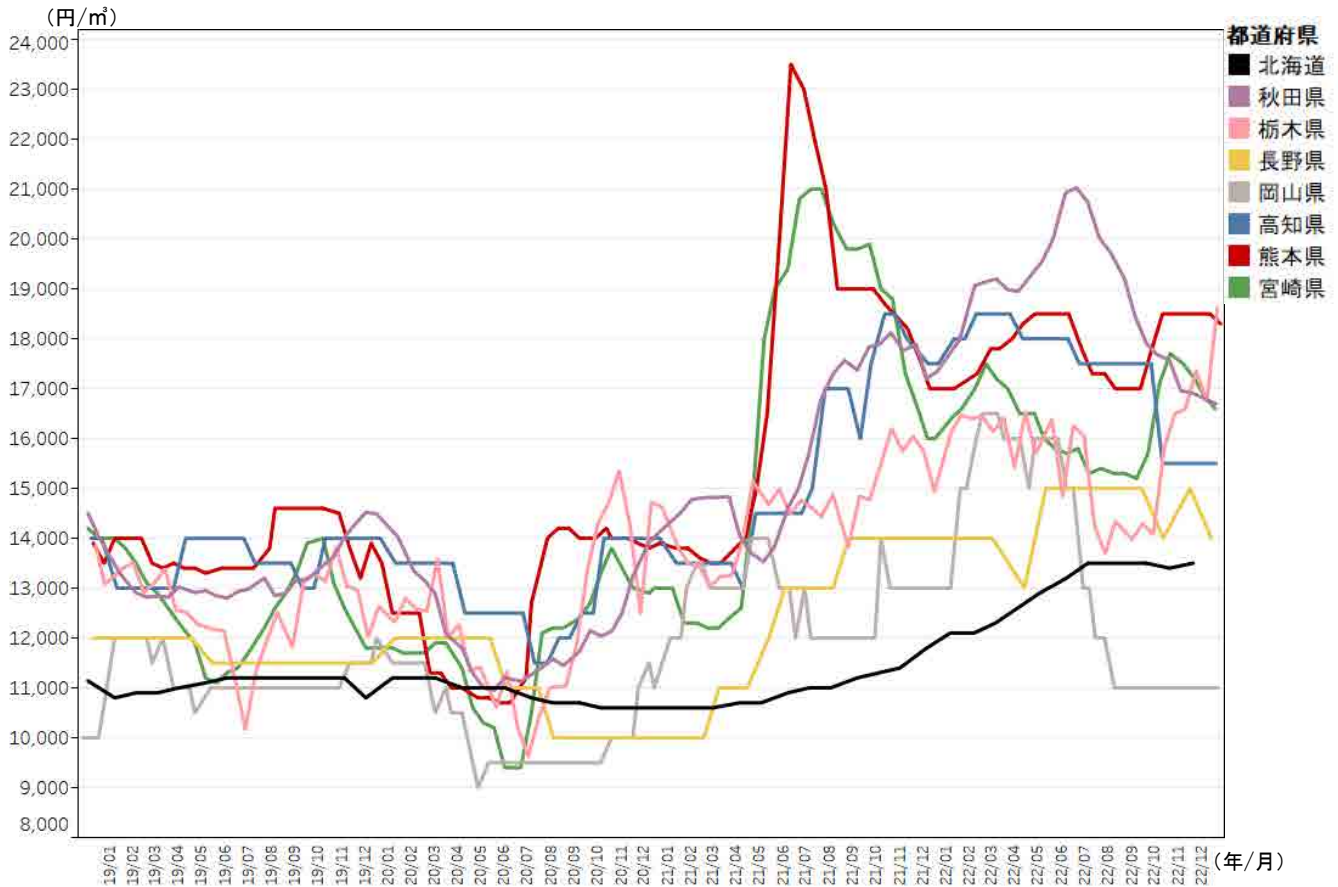
2015年=100



資料: Eurostat (Production in construction - monthly data)

木材価格情報-1 スギ原木の主要市場価格

- 2021年4月以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇し、その後一部の地域で下落したが、全般的には、2021年3月以前と比較すると高い水準で推移。
- 直近のスギ原木価格は、11,000円～18,640円/m³となっている。



資料：林野庁木材産業課調べ

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：径24cm程度、長さ3.65～4.0m（2018年12月～）。

注3：都道府県が選定した特定の前木市場・共販所の価格。

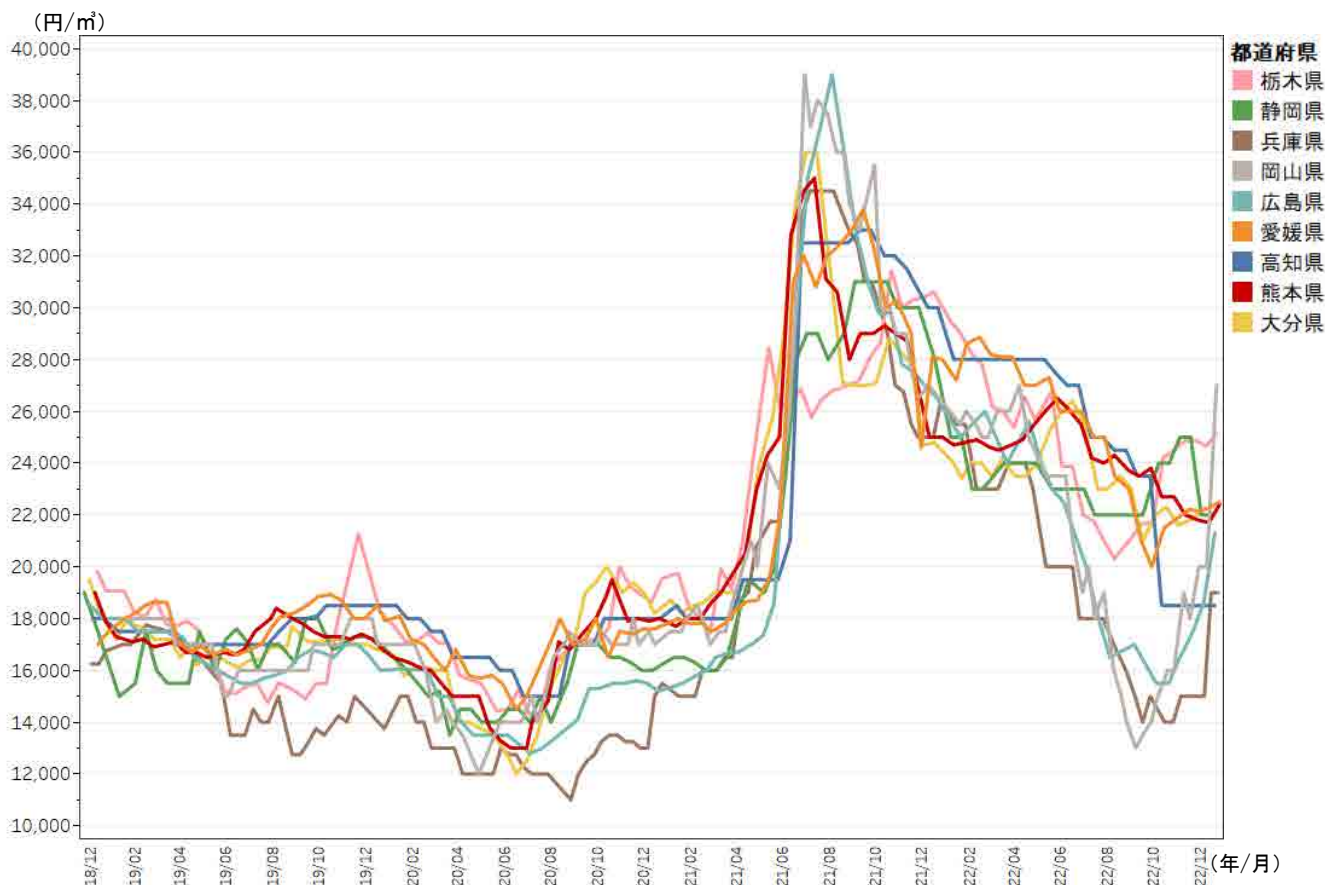
（単位：円/m³）

都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
■ 北海道	13,500	11,400	118%
■ 秋田県	16,700	17,350	96%
■ 栃木県	18,640	14,940	125%
■ 長野県	14,000	14,000	100%
■ 岡山県	11,000	13,000	85%
■ 高知県	15,500	17,500	89%
■ 熊本県	18,300	17,000	108%
■ 宮崎県	16,600	16,000	104%

※北海道については11月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については12月の値を使用。

木材価格情報-1 ヒノキ原木の主要市場価格

- ヒノキにおいてもスギと同様に、2021年4月以降、価格が大きく上昇。その後下落傾向に転じているが、2021年3月以前と比較すると全般的に高い水準で推移。
- 直近のヒノキ原木価格は、18,500円～27,000円/m³となっている。



資料：林野庁木材産業課調べ

注1：径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

(単位：円/m³)

都道府県	2022年直近※	前年同期	前年同期比
栃木県	25,110	30,600	82%
静岡県	22,000	28,000	79%
兵庫県	19,000	26,250	72%
岡山県	27,000	27,000	100%
広島県	21,320	26,500	80%
愛媛県	22,500	28,000	80%
高知県	18,500	30,000	62%
熊本県	22,400	25,000	90%
大分県	22,100	27,800	79%

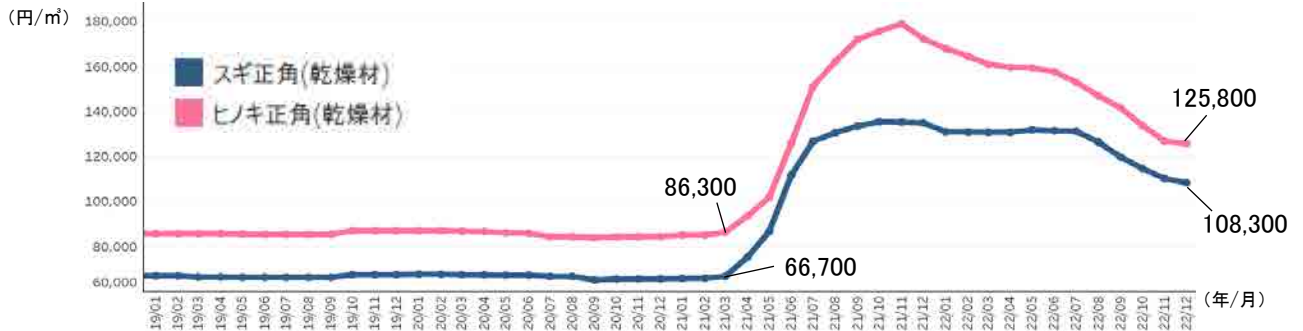
※各県12月の値を使用。

木材価格情報-2 木材価格（農林水産統計）

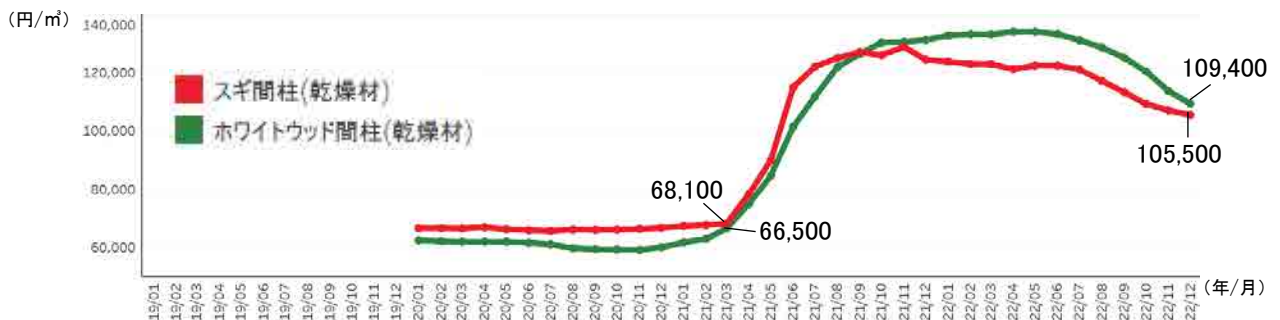
- 主な製材品及び針葉樹合板の全国平均価格は、いわゆるウッドショック以前（2021年3月以前）と比較すると、引き続き高い水準で推移。
- 2022年12の正角（乾燥材）の価格は、スギは108,300円/m³（前年同期比80%）、ヒノキは125,800円/m³（同73%）。
- 同月の間柱（乾燥材）の価格は、スギは105,500円/m³（前年同期比85%）、ホワイトウッドは109,400円/m³（同83%）。
- 同月の針葉樹合板の価格は、2,320円/枚（前年同期比134%）。

■主な製材品等の価格推移（全国平均価格）

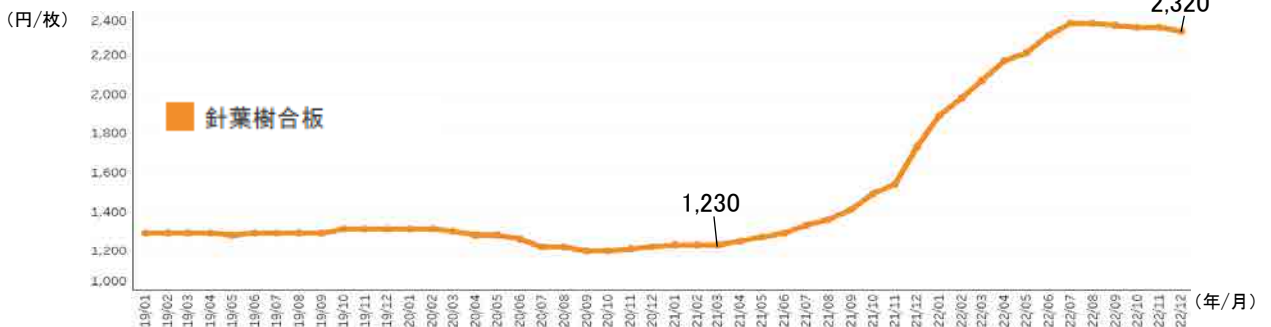
○正角（乾燥材）※厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級



○間柱（乾燥材）※厚3.0cm、幅10.5cm、長3.0m、特等



○針葉樹合板 ※厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m、1類



資料：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

注：1 針葉樹合板は、2022年1月より、四半期ごとの公表となった（4月に1～3月分、7月に4～6月分、10月に7～9月分、翌1月に10～12月分を公表）。

2 製材品価格及び合板価格は、木材市売市場にあたってはせり又は入札による取引価格、木材センター及び木材販売業者にあたっては店頭渡し価格である。

3 2022年は「木材価格」に拠る速報値、2021年以前は「木材需給報告書」に拠る確定値である。（速報値は今後修正される可能性がある）

(1) 全国平均価格

年次	月	丸太								製材品															
		スギ		ヒノキ		カラマツ		スギ		スギ		スギ		ヒノキ		ヒノキ		ミツガ		スギ		ホワイトウッド			
		中丸太(製材用)		中丸太(製材用)		中丸太(製材用)		丸太(合板用)		正角		正角(乾燥材)		正角		正角(乾燥材)		10.5cm角		3.0×10.5cm		3.0×10.5cm			
		14-22cm	3.65-4m (円/㎡)	14-22cm	3.65-4m (円/㎡)	14-28cm	3.65-4m (円/㎡)	18cm上	対前年 比(%)	10.5cm角	3.0m (円/㎡)	対前年 比(%)	10.5cm角	3.0m (円/㎡)	対前年 比(%)	10.5cm角	3.0m (円/㎡)	対前年 比(%)	10.5cm角	4.0m (円/㎡)	対前年 比(%)	3.0m (円/㎡)	対前年 比(%)	3.0m (円/㎡)	対前年 比(%)
		2019年	1	14,100	100	19,000	109	12,100	105	11,300	104	61,600	101	67,000	101	76,500	100	85,700	100	79,900	100	66,600	100	62,400	100
2022年	第4四半期	17,800	101	21,900	70	16,800	120	15,500	117	61,300	89	111,100	82	85,800	89	128,800	73	141,200	104	107,300	85	114,500	87	114,500	107

資料：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

注：1 「木材価格」における調査対象が2021年8月より変更になったことから、2021年7月及び8月のスギ及びヒノキ正角の
 数値は接続しない。

2 「木材価格」における調査対象が2021年8月より変更になったことから、2021年8月～2022年7月の対前年同月比、
 2021年の年平均価格、2021年の対前年比、2021年第3四半期平均価格、2021年第3四半期～2022年第3四半期の
 対前年同期比は算出できないため、「－」と表示している。

3 2022年1月より、四半期ごとの公表となった（4月に1～3月分、7月に4～6月分、10月に7～9月分、
 翌1月に10～12月分を公表）。

4 丸太価格のうち、製材用丸太価格は製材工場、合板用丸太価格は合板工場における工場着購入価格である。

5 製材品価格は、木材市売市場にあたってはせり又は入札による取引価格、木材センター及び木材販売業者にあたっては
 店頭渡し価格である。

6 2022年は「木材価格」に拠る速報値、2021年以前は「木材需給報告書」に拠る確定値である
 （速報値は今後修正される可能性がある）

○カラマツ中丸太（製材用、径14.0～28.0cm、長3.65～4.0m）

・2021年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	11,900	12,000	11,900	11,900	11,900	12,500	12,700	12,800	13,100	13,200	13,300	13,300
岩手	17,600	17,600	17,600	17,700	18,300	18,800	20,100	20,100	20,800	20,900	21,000	21,100

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	13,700	13,600	13,800	14,000	14,500	15,800	15,500	15,700	15,500	15,600	15,600	15,800
岩手	21,200	23,900	25,300	25,500	31,500	32,000	32,200	30,500	30,500	30,100	28,200	25,700

○スギ丸太（合板用、径18.0cm上）

・2021年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
岩手	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,900	10,600	11,300	11,700	12,400
宮城	10,900	10,900	10,900	10,900	10,900	11,100	11,100	11,100	11,600	11,900	13,300	14,400
秋田	10,300	10,300	10,300	10,600	10,500	10,600	10,600	11,200	11,400	11,500	12,900	13,300
鳥根	11,900	12,700	12,800	12,800	12,900	13,000	13,200	13,800	14,300	14,800	14,900	14,900

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
岩手	12,600	13,300	14,100	14,100	14,100	15,100	14,500	13,800	13,800	13,800	13,800	13,100
宮城	15,300	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400	16,400
秋田	14,100	16,700	17,200	17,900	17,800	17,800	18,100	17,800	17,100	16,900	16,200	16,200
鳥根	14,300	14,900	15,000	15,300	15,600	15,500	15,700	15,400	15,300	15,400	15,200	15,200

○スギ正角（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
千葉	52,900	52,900	52,900	66,800	72,000	98,700	98,700	98,700	98,700	98,700	98,500	88,000
東京	x	x	x	x	66,000	66,000	66,000	61,200	61,200	61,200	61,200	61,200
大阪	55,000	55,000	58,100	61,900	65,000	80,500	92,900	105,800	105,800	105,800	105,800	105,800
福岡	38,900	38,900	38,900	41,800	44,000	53,600	56,900	57,200	57,200	59,300	58,600	58,600

・2022年

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
千葉			88,000			88,000			77,300			77,300
東京			58,800			58,800			57,300			53,500
大阪			103,100			103,100			103,100			103,100
福岡			58,600			60,500			58,600			56,700

※2022年1月より四半期ごとの公表（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○スギ正角・乾燥材（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉	60,900	61,000	64,100	86,000	97,800	132,500	137,600	138,800	143,200	143,000	142,700	142,300
千葉	69,100	69,400	70,100	86,300	99,000	125,500	147,100	152,300	153,100	153,100	146,900	142,900
東京	71,400	71,400	71,400	71,500	85,900	115,400	142,600	142,900	148,300	148,300	148,300	148,300
神奈川	66,300	68,100	68,500	77,400	79,400	111,200	131,700	152,000	153,000	153,100	153,100	153,100
愛知	71,300	71,300	71,300	80,700	89,100	107,500	121,800	121,800	121,800	121,800	121,600	116,100
大阪	70,600	70,600	70,900	76,800	82,500	99,000	111,200	111,200	111,200	112,500	112,500	112,500
兵庫	70,200	70,200	71,500	79,300	91,500	113,300	128,000	142,700	142,700	142,700	142,700	142,700
福岡	62,000	62,000	62,000	67,400	77,800	93,100	103,900	112,900	113,600	120,400	120,400	120,400

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉	125,700	125,200	125,200	125,500	125,500	124,400	123,700	112,200	109,800	96,100	95,700	95,400
千葉	146,100	146,100	146,100	140,800	140,800	140,800	140,800	135,500	135,500	134,700	132,400	131,600
東京	148,900	148,900	148,900	148,900	148,900	148,900	148,800	148,800	132,800	132,400	126,800	121,000
神奈川	153,100	153,000	153,000	153,000	153,000	152,300	151,600	151,500	146,300	139,800	134,000	134,000
愛知	116,100	116,100	114,800	114,800	120,100	120,100	120,100	117,300	114,400	110,500	109,700	108,300
大阪	111,900	111,900	111,900	112,500	122,300	121,700	121,700	111,900	111,900	110,000	105,200	105,200
兵庫	142,900	142,900	142,900	142,900	146,000	143,700	143,700	134,300	131,200	128,000	122,600	119,400
福岡	120,400	120,400	120,400	120,400	120,400	120,300	120,300	117,600	113,800	110,100	102,800	102,800

資料：農林水産省「木材価格」

注1：2021年8月より、東京都の調査対象が変更になったことから、2021年7月及び8月の東京都のスギ正角の数値は接続しない。

注2：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注3：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注4：スギ正角の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○ヒノキ正角（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
千葉県	71,900	71,900	71,900	73,900	84,800	86,000	98,200	98,200	98,200	98,200	98,200	98,200
東京	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
愛知	85,400	85,400	85,400	86,700	88,000	92,500	96,100	96,100	96,100	96,100	96,100	96,100
大阪	62,400	62,400	71,300	67,900	72,000	83,200	108,700	118,200	145,700	129,000	129,000	125,800
兵庫	66,800	66,800	67,200	69,500	76,400	79,600	87,400	99,300	120,700	120,400	120,400	116,100
福岡	50,300	50,300	50,300	50,300	55,800	66,000	82,500	82,500	82,500	82,500	82,500	82,500

・2022年

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
千葉県			98,200			98,100			92,000			91,000
東京			x			x			x			x
愛知			94,800			94,800			93,500			93,500
大阪			119,700			112,100			107,900			100,300
兵庫			116,300			114,300			106,300			95,500
福岡			82,500			86,600			84,200			82,500

※2022年1月より四半期ごとの公表（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

○ヒノキ正角・乾燥材（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m、2級）

・2021年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県	78,200	78,200	79,000	91,400	100,900	138,900	147,000	148,000	164,300	168,700	167,900	160,200
千葉県	94,000	94,900	95,800	105,500	114,200	131,500	149,300	161,300	161,300	165,900	163,800	164,900
東京	98,900	98,900	98,900	98,900	104,500	121,000	142,900	143,100	159,500	175,800	175,800	175,800
神奈川	78,700	79,000	84,100	94,800	110,500	146,200	178,800	184,700	186,300	187,400	187,400	187,400
愛知	94,700	94,700	94,700	97,500	102,900	113,500	128,100	129,400	142,400	142,900	165,700	161,900
大阪	80,100	80,100	82,800	90,600	98,000	128,900	169,100	192,900	193,800	193,800	193,800	181,100
兵庫	78,900	78,900	79,700	88,600	101,800	113,800	152,600	179,600	188,800	188,400	188,400	180,800

・2022年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県	145,600	142,500	142,500	142,500	142,500	141,800	139,800	128,600	122,800	110,100	109,700	109,700
千葉県	171,400	169,100	169,100	164,800	164,800	164,800	164,800	158,100	158,100	156,100	150,200	150,200
東京	175,500	175,400	175,400	175,500	175,500	175,500	175,200	175,200	164,600	164,200	153,400	153,400
神奈川	187,400	185,300	185,300	185,300	185,300	181,900	178,600	173,300	167,300	151,900	146,500	145,600
愛知	159,400	159,400	151,900	149,700	149,700	149,700	137,000	131,600	130,700	124,600	117,000	115,100
大阪	176,400	169,900	163,600	162,600	161,700	159,800	154,400	152,600	147,000	137,800	130,600	130,600
兵庫	184,800	178,400	173,900	168,100	168,100	161,200	156,600	143,000	138,400	131,500	117,900	113,300

○米ツガ正角・防腐処理材（厚10.5cm、幅10.5cm、長4.0m、2級）

・2021年

単位：円/m³

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県	78,900	78,900	79,900	85,600	98,600	104,600	116,100	129,300	139,300	139,300	141,300	141,300
千葉県	78,200	78,500	78,500	85,600	91,900	100,300	119,100	129,800	139,400	139,400	139,400	138,500
神奈川	81,000	82,000	84,500	86,500	95,700	105,600	117,700	133,300	137,400	139,700	139,700	142,200
愛知	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	145,500	136,900
大阪	79,200	79,200	84,200	93,500	96,200	104,500	121,000	121,000	121,000	121,000	121,000	121,000
兵庫	79,200	79,200	80,500	88,000	93,500	103,300	107,700	114,300	121,000	121,000	121,000	121,000

・2022年

都道府県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道			135,700			138,000			138,000			138,000
埼玉県			144,700			148,800			151,900			147,200
千葉県			139,800			142,400			142,400			140,700
東京			154,400			154,400			154,400			154,000
神奈川			142,200			143,100			143,100			140,800
愛知			158,300			158,300			145,500			143,000
大阪			121,000			132,000			132,000			132,000
兵庫			138,500			141,800			141,800			145,000

※2022年1月より四半期ごとの公表（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

資料：農林水産省「木材価格」

注1：「x」は、個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの。

注2：年間を通じて価格を「x」として、統計数値を公表していない都道府県は省略している。

注3：ヒノキ正角、米ツガ正角・防腐処理材の価格は、2022年1月より四半期ごとの公表となった（4月に3月分、7月に6月分、10月に9月分、翌1月に12月分を公表）。

木材需給情報-1 木材需要の動向（2021年木材需給表）

- 木材の総需要量は、82,132千 m^3 （対前年比110.3%）となった。内訳は、用材が67,142千 m^3 （同109.4%）、しいたけ原木が246千 m^3 （同101.7%）、燃料材が14,744千 m^3 （同115.1%）である。
- 国内消費量は、78,881千 m^3 （対前年比110.4%）となった。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、パルプ・チップ用材の+2,629千 m^3 （同110.6%）、燃料材の+1,940千 m^3 （同115.2%）である。
- 輸出量は、3,251千 m^3 （対前年比108.0%）となった。この中で、前年に比べて増加したものは、丸太（用材）の+75千 m^3 （同105.4%）、製材品等の+60千 m^3 （同121.8%）、合板等の+58千 m^3 （同132.4%）、木材パルプ・チップ等の+50千 m^3 （同104.3%）である。

木材需要の動向

区 分			2021年		2020年		対前年 増減量 (千 m^3)	対前年 比 (%)
			数量 (千 m^3)	構成比 (%)	数量 (千 m^3)	構成比 (%)		
総 需 要 量	用 材	製材用材	26,179	31.9	24,597	33.0	1,582	106.4
		合板用材	10,294	12.5	8,919	12.0	1,375	115.4
		パルプ・チップ用材	28,743	35.0	26,064	35.0	2,679	110.3
		その他用材	1,926	2.3	1,812	2.4	114	106.3
		小計	67,142	81.7	61,392	82.5	5,750	109.4
	しいたけ原木	246	0.3	242	0.3	4	101.7	
	燃料材	14,744	18.0	12,805	17.2	1,939	115.1	
計			82,132	100.0	74,439	100.0	7,693	110.3
国 内 消 費	用 材	製材用材	25,844	32.8	24,321	34.0	1,523	106.3
		合板用材	10,056	12.7	8,741	12.2	1,315	115.0
		パルプ・チップ用材	27,529	34.9	24,900	34.9	2,629	110.6
		その他用材	466	0.6	426	0.6	40	109.4
		小計	63,895	81.0	58,387	81.7	5,508	109.4
	しいたけ原木	246	0.3	242	0.3	4	101.7	
	燃料材	14,740	18.7	12,800	17.9	1,940	115.2	
計			78,881	100.0	71,430	100.0	7,451	110.4
輸 出	用 材	丸太	1,459	44.9	1,384	46.0	75	105.4
		製材品等	335	10.3	275	9.2	60	121.8
		合板等	237	7.3	179	5.9	58	132.4
		木材パルプ・チップ等	1,214	37.3	1,164	38.7	50	104.3
		その他	2	0.1	3	0.1	△1	66.7
	小計	3,247	99.9	3,005	99.8	242	108.1	
	燃料材	4	0.1	5	0.2	△1	80.0	
計			3,251	100.0	3,009	100.0	242	108.0

資料：林野庁「木材需給表」

注：1）燃料材とは、木炭、薪、燃料用チップ及びペレットである。

2）輸出の製材品等は、製材、集成材、構造用集成材、セルラーウツパネル、加工材等である。

3）輸出の合板等は、合板、薄板・単板、ブロックボード等である。

4）輸出の木材パルプ・チップ等は、木材パルプ、木材チップ、再生木材である。

5）輸出の用材のその他は、改良木材、枕木、のこくず・木くずである。

6）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

木材需給情報-1 木材供給の動向（2021年木材需給表）

- 木材の総供給量は、82,132千 m^3 （対前年比110.3%）となった。内訳は、用材が67,142千 m^3 （同109.4%）、しいたけ原木が246千 m^3 （同101.7%）、燃料材が14,744千 m^3 （同115.1%）である。
- 国内生産量は、33,723千 m^3 （対前年比108.3%）となった。この中で、前年に比べて増加量が大きかったものは、丸太（用材）の+2,092千 m^3 （同109.6%）である。
- 輸入量は、48,409千 m^3 （対前年比111.8%）となった。この中で、前年に比べ増加量が大きかったものは、木材チップ等の+2,538千 m^3 （同115.2%）、燃料材の+1,516千 m^3 （同139.1%）である。一方で、製材品等は Δ 218千 m^3 （同97.8%）、木材パルプは Δ 199千 m^3 （同96.0%）と減少した。

木材供給の動向

区 分			2021年		2020年		対前年 増減量 (千 m^3)	対前年 比 (%)	
			数量 (千 m^3)	構成比 (%)	数量 (千 m^3)	構成比 (%)			
総供給量	用材	丸太	27,845	33.9	25,180	33.8	2,665	110.6	
		林地残材	161	0.2	106	0.1	55	151.9	
		輸入木材製品	39,136	47.6	36,106	48.5	3,030	108.4	
		小計	67,142	81.7	61,392	82.5	5,750	109.4	
	しいたけ原木	246	0.3	242	0.3	4	101.7		
	燃料材	14,744	18.0	12,805	17.2	1,939	115.1		
	計	82,132	100.0	74,439	100.0	7,693	110.3		
国内生産	用材	丸太	23,966	71.1	21,874	70.2	2,092	109.6	
		林地残材	161	0.5	106	0.3	55	151.9	
		小計	24,127	71.5	21,980	70.6	2,147	109.8	
	しいたけ原木	246	0.7	242	0.8	4	101.7		
	燃料材	9,350	27.7	8,927	28.7	423	104.7		
計	33,723	100.0	31,149	100.0	2,574	108.3			
輸入	用材	丸太	3,879	8.0	3,306	7.6	573	117.3	
		製材品等	製材品等	9,903	20.5	10,121	23.4	Δ 218	97.8
			合板等	5,201	10.7	4,293	9.9	908	121.2
			木材パルプ	4,798	9.9	4,997	11.5	Δ 199	96.0
			木材チップ等	19,184	39.6	16,646	38.5	2,538	115.2
			その他	49	0.1	49	0.1	0	100.0
	小計	39,136	80.8	36,106	83.4	3,030	108.4		
	燃料材	5,394	11.1	3,878	9.0	1,516	139.1		
計	48,409	100.0	43,290	100.0	5,119	111.8			

資料：林野庁「木材需給表」

注：1）林地残材とは、立木を伐採した後の林地に残されている根株、枝条等のうち、利用を目的に木材チップ工場に搬入されたものである。

2）燃料材とは、木炭、薪、燃料用チップ及びペレットである。

3）輸入の製材品等は、製材、集成材、構造用集成材、セルラーウツパネル、加工材等である。

4）輸入の合板等は、合板、薄板・単板、ブロックボード等である。

5）輸入の木材チップ等は、木材チップ、再生木材である。

6）輸入の用材のその他は、改良木材、枕木、のこくず・木くずである。

7）数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

木材需給情報-1 木材自給率の動向（2021年木材需給表）

- 建築用材等の自給率は、製材用材の国内生産が大きく増加したこと等により、対前年比で0.8ポイント上昇し、48.0%となった。
- 非建築用材等の自給率は、パルプ・チップ用材及び燃料材の輸入が大きく増加したこと等により、対前年比で2.0ポイント低下し、35.5%となった。
- これらを合わせた総数での自給率は、対前年比で0.7ポイント低下し、41.1%となった。

【参考】木材自給率（%）＝ 国内生産量 ÷ 総需要量（※） × 100
 ※「総需要量」は「国内消費量」に「輸出量」を加えたもの。

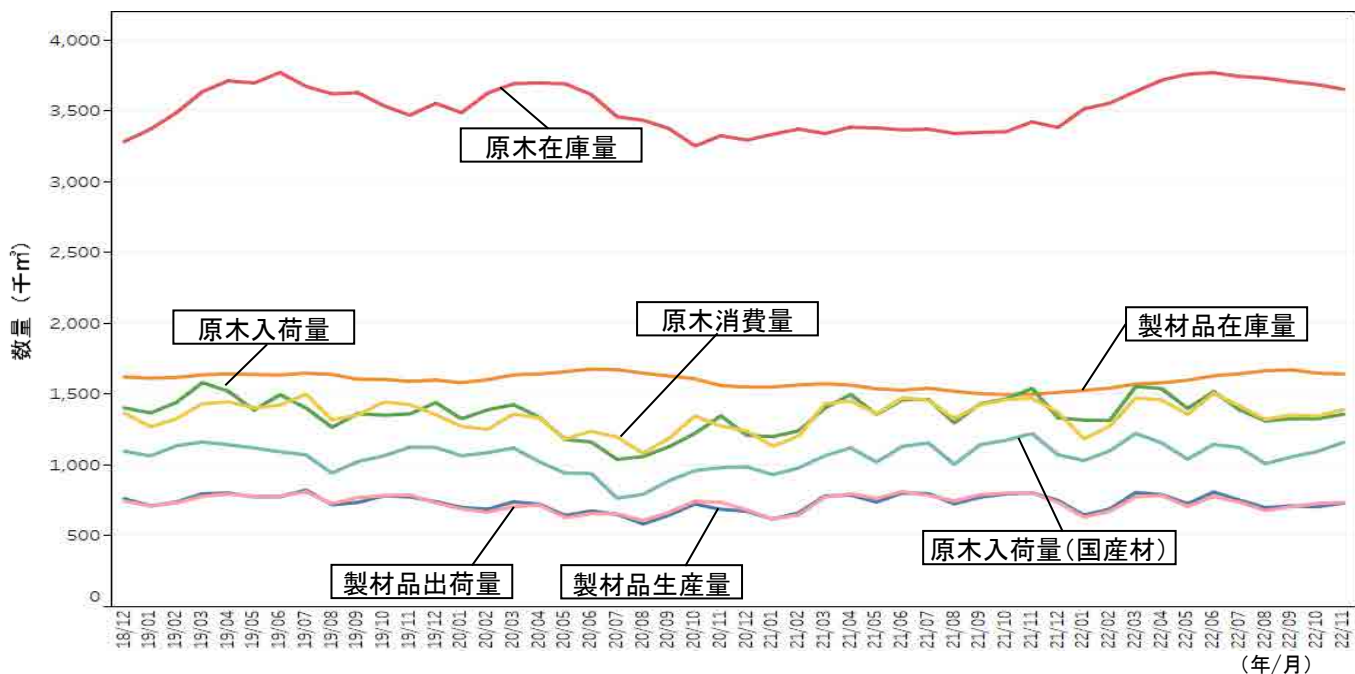
木材自給率の動向

区 分		2021年	2020年	対前年 増減量 (千m ³)	対前年比 (%)	
		数量 (千m ³)	数量 (千m ³)			
建築用材等	国内生産	17,522	15,810	1,712	110.8	
	輸 入	18,951	17,706	1,245	107.0	
	総 需 要 量	36,473	33,516	2,957	108.8	
	自 給 率	48.0%	47.2%	0.8ポ ^ン ト		
用材	製材用材	国内生産	12,861	11,615	1,246	110.7
		輸 入	13,318	12,982	336	102.6
	総 需 要 量	26,179	24,597	1,582	106.4	
	自 給 率	49.1%	47.2%	1.9ポ ^ン ト		
合板用材	国内生産	4,661	4,195	466	111.1	
	輸 入	5,633	4,724	909	119.2	
総 需 要 量	10,294	8,919	1,375	115.4		
自 給 率	45.3%	47.0%	△ 1.7ポ ^ン ト			
非建築用材等	国内生産	16,201	15,339	862	105.6	
	輸 入	29,458	25,584	3,874	115.1	
	総 需 要 量	45,659	40,923	4,736	111.6	
	自 給 率	35.5%	37.5%	△ 2.0ポ ^ン ト		
用材	パルプ・チップ用材	国内生産	4,744	4,420	324	107.3
		輸 入	24,000	21,644	2,356	110.9
	総 需 要 量	28,743	26,064	2,679	110.3	
	自 給 率	16.5%	17.0%	△ 0.5ポ ^ン ト		
その他用材	国内生産	1,862	1,750	112	106.4	
	輸 入	65	62	3	104.8	
総 需 要 量	1,926	1,812	114	106.3		
自 給 率	96.6%	96.6%	0.0ポ ^ン ト			
しいたけ原木	国内生産	246	242	4	101.7	
	輸 入	-	-	-	-	
	総 需 要 量	246	242	4	101.7	
自 給 率	100.0%	100.0%	0.0ポ ^ン ト			
燃料材	国内生産	9,350	8,927	423	104.7	
	輸 入	5,394	3,878	1,516	139.1	
	総 需 要 量	14,744	12,805	1,939	115.1	
	自 給 率	63.4%	69.7%	△ 6.3ポ ^ン ト		
総 数	国内生産	33,723	31,149	2,574	108.3	
	輸 入	48,409	43,290	5,119	111.8	
	総 需 要 量	82,132	74,439	7,693	110.3	
	自 給 率	41.1%	41.8%	△ 0.7ポ ^ン ト		
うち 用材の計	国内生産	24,127	21,980	2,147	109.8	
	輸 入	43,015	39,412	3,603	109.1	
	総 需 要 量	67,142	61,392	5,750	109.4	
	自 給 率	35.9%	35.8%	0.1ポ ^ン ト		

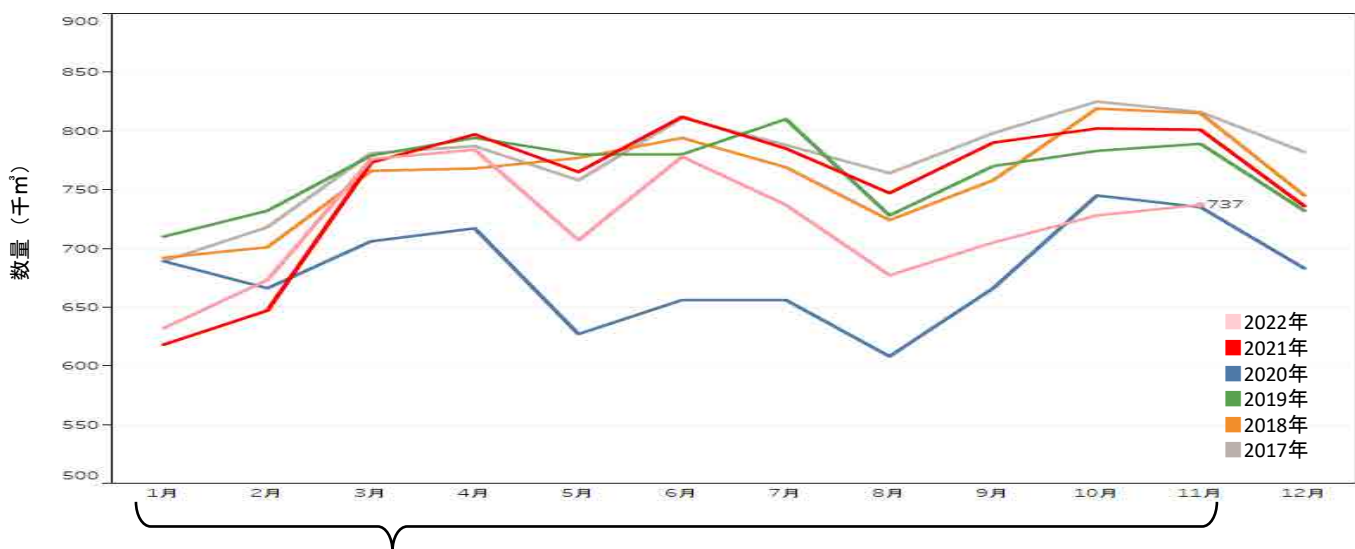
資料：林野庁「木材需給表」

注) 数値の合計値は、四捨五入のため計に一致しない場合がある。

- 2022年1～11月の原木の入荷量は15,348千 m^3 （2019年比 99%）。
- 同様に製材品の出荷量は7,934千 m^3 （2019年比 94%）。



○製材品出荷量の月別推移（全国）



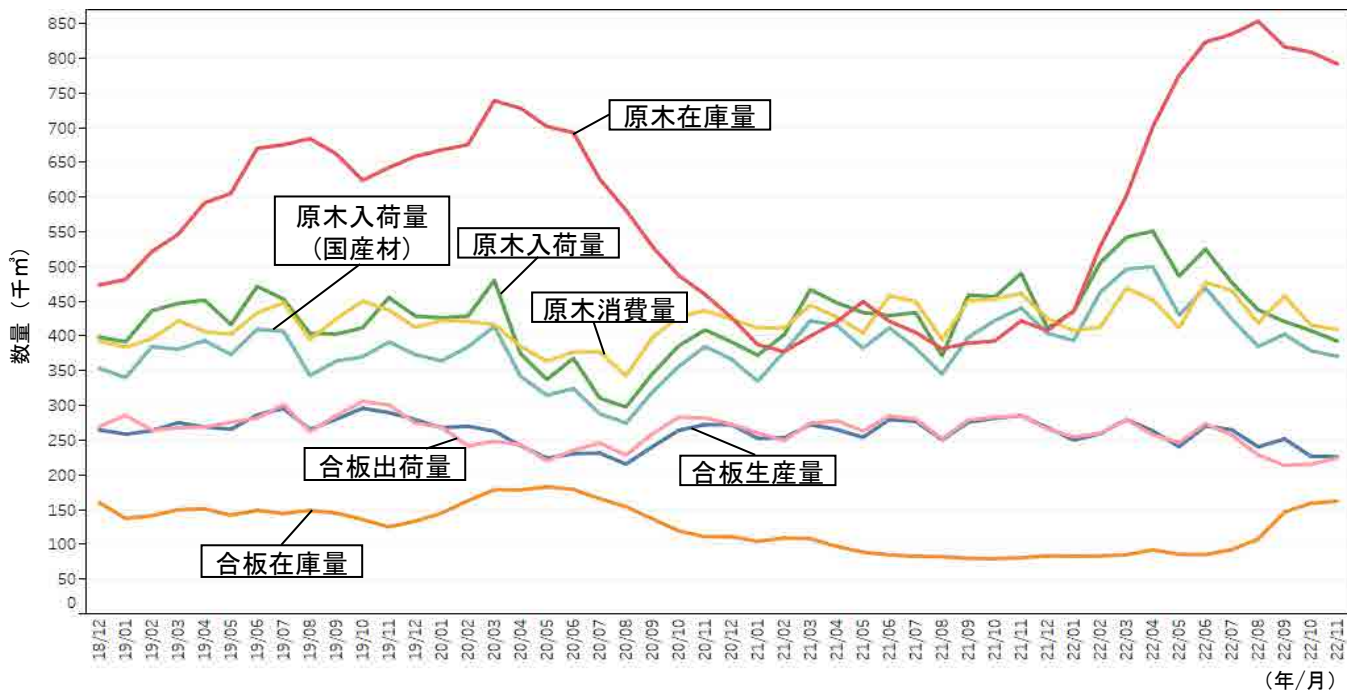
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～11月原木入荷量合計(千 m^3)	15,114	15,276	15,534	13,615	15,352	15,348
2019年との比較*	97%	98%	—	88%	99%	99%
1～11月出荷量合計(千 m^3)	8,535	8,383	8,455	7,471	8,337	7,934
2019年との比較*	101%	99%	—	88%	99%	94%

※2019年の数値を100%とした比較

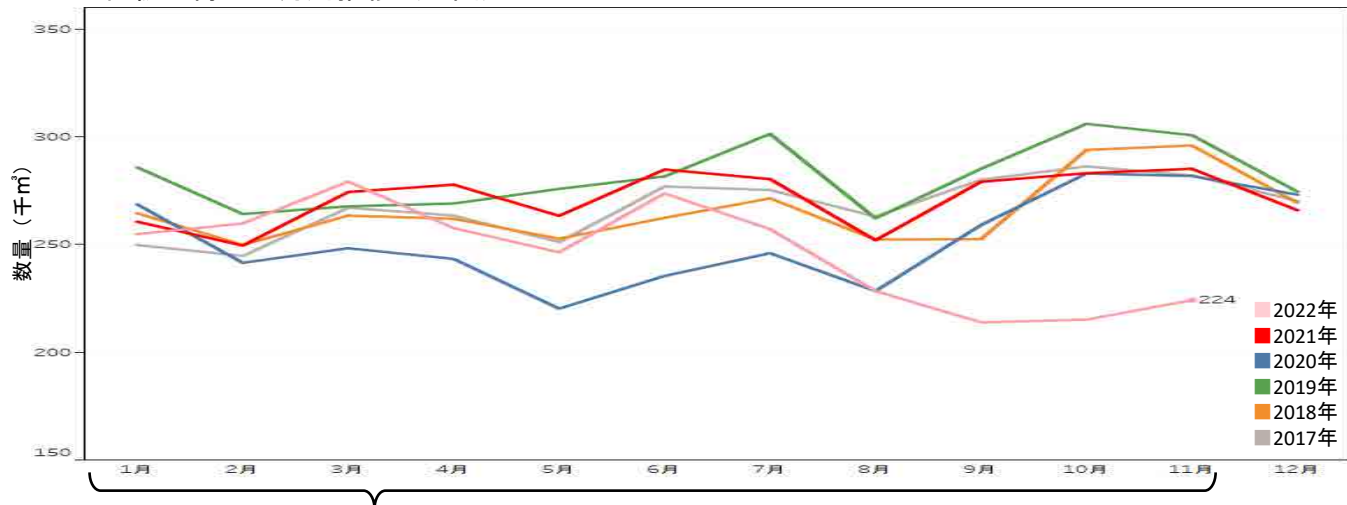
資料：農林水産省「製材統計」

木材需給情報-3 合板工場の原木入荷、製品生産等の動向

- 2022年1～11月の原木の入荷量は5,181千 m^3 （2019年比 109%）。
- 同様に合板の出荷量は2,710千 m^3 （2019年比 87%）。



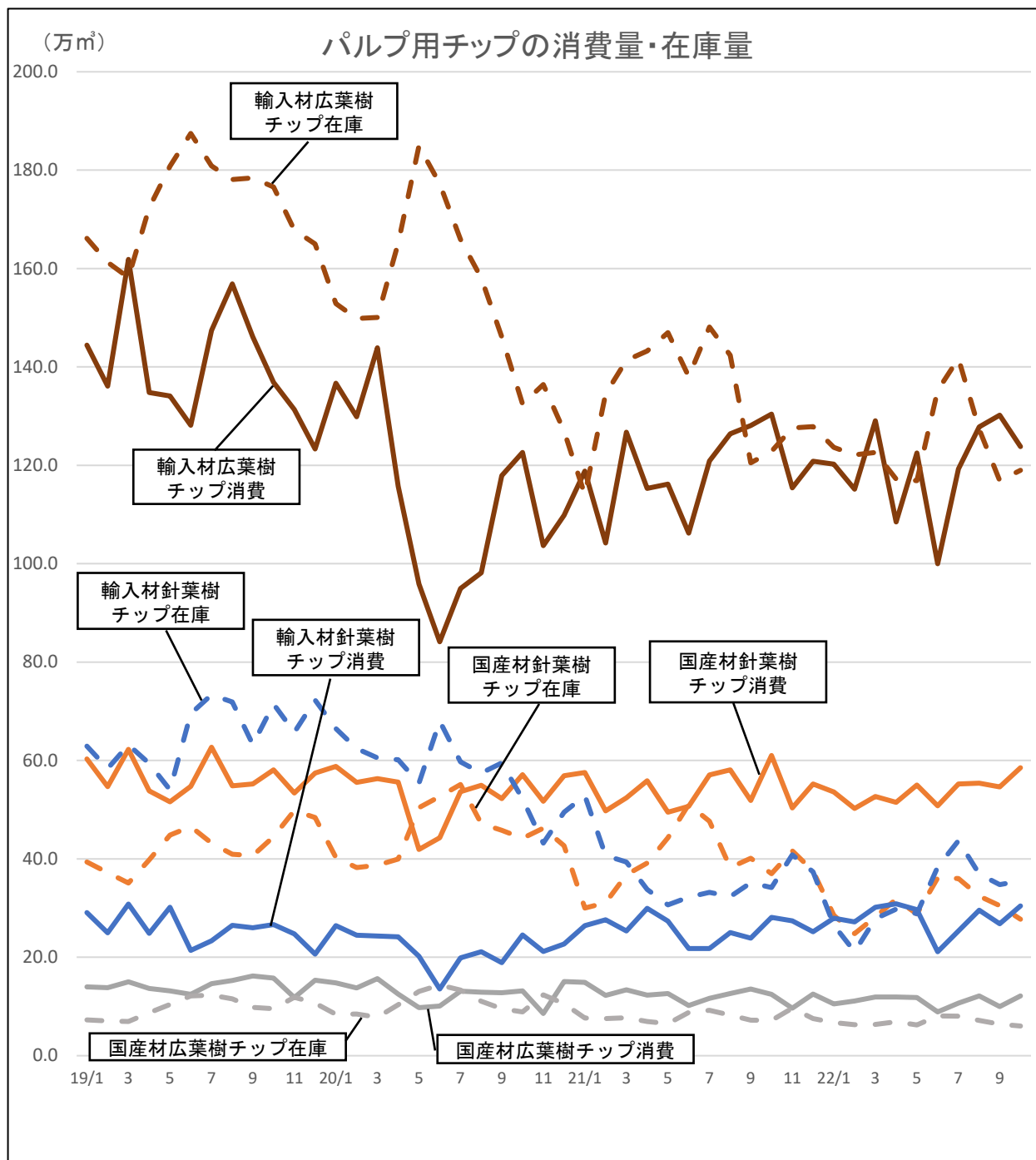
○合板出荷量の月別推移（全国）



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～11月原木入荷量 合計(千 m^3)	4,220	4,532	4,741	4,162	4,762	5,181
2019年との比較*	89%	96%	—	88%	100%	109%
1～11月出荷量 合計(千 m^3)	2,939	2,920	3,099	2,755	2,990	2,710
2019年との比較*	95%	94%	—	89%	96%	87%

※2019年の数値を100%とした比較

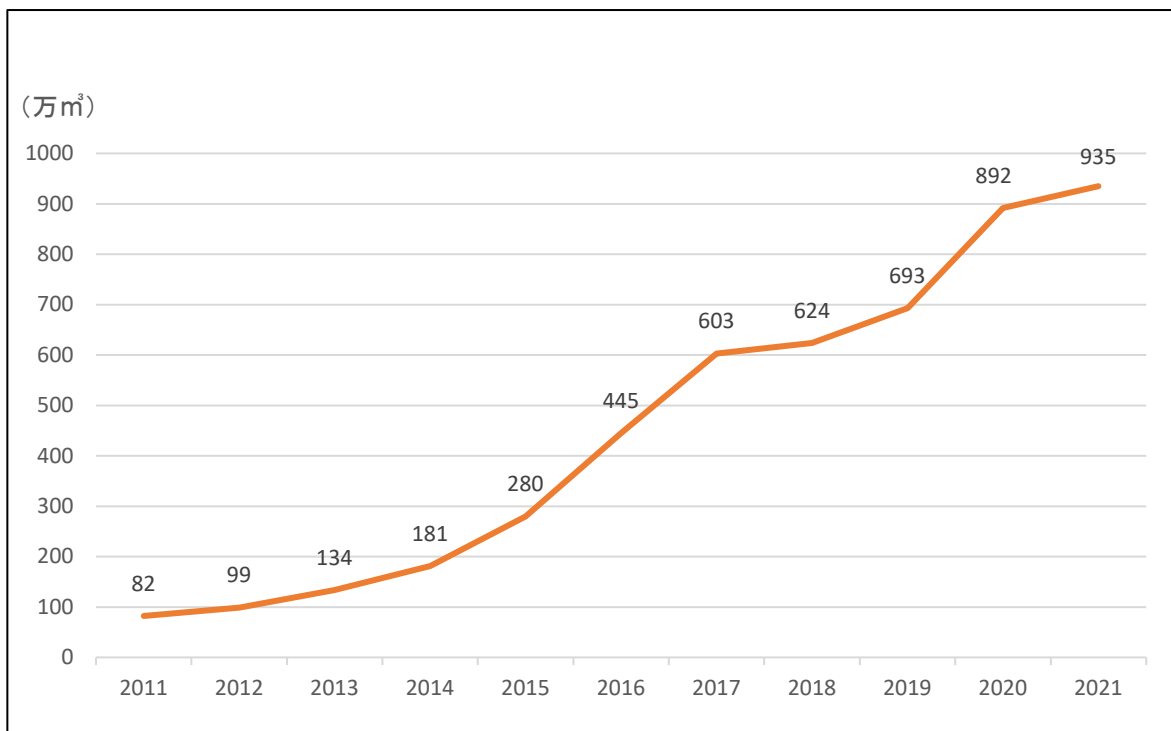
- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。



資料：林野庁木材産業課調べ

- 燃料材(国内生産)の利用量は、発電利用を中心に増加(過去10年間で約11倍)。
- 紙の生産高は2020年6月に減少したが、その後一定程度回復している。

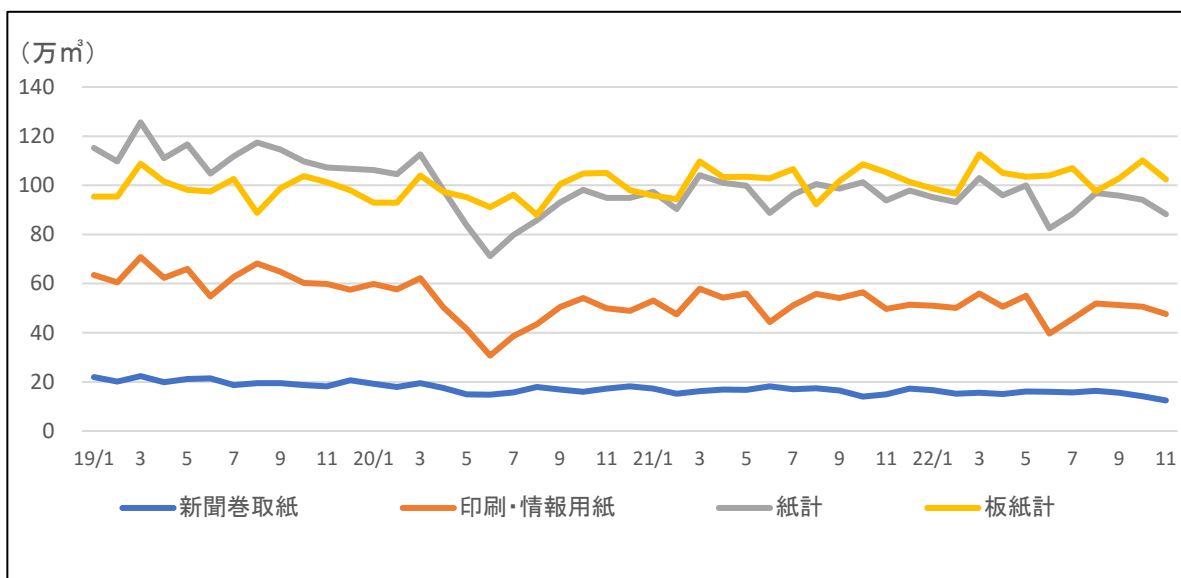
○燃料材(国内生産)の利用量の推移



資料：木材利用課調べ(～2014年)、林野庁「木材需給表」(2015年～)

注：利用量には輸出力は含まない。

○紙品種別生産高



資料：林野庁木材産業課調べ

木材需給情報-6 素材生産量（2021年）

- 2021年の製材、合板及びチップ用材の素材生産量は2,185万 m^3 。

単位：千 m^3

全 国 都道府県	計	製材用	合板等用	木材チップ用	針葉樹		広葉樹
					スギ		
全 国	21,847	12,861	4,661	4,325	20,088	12,917	1,759
北 海 道	3,163	1,630	652	881	2,615	63	548
青 森	971	360	397	214	924	812	47
岩 手	1,431	525	547	359	1,228	770	203
宮 城	627	218	292	117	588	538	39
秋 田	1,183	486	554	143	1,109	1,095	74
山 形	305	223	75	7	302	291	3
福 島	890	444	64	382	756	568	134
茨 城	401	320	4	77	374	254	27
栃 木	658	463	5	190	571	396	87
群 馬	252	162	31	59	240	179	12
埼 玉	67	31	x	x	43	25	24
千 葉	50	16	4	30	35	28	15
東 京	64	17	8	39	58	37	6
神 奈 川	10	8	x	x	9	6	1
新 潟	119	81	23	15	112	111	7
富 山	112	57	21	34	96	90	16
石 川	108	52	37	19	98	85	10
福 井	122	57	30	35	120	114	2
山 梨	125	27	x	x	104	27	21
長 野	460	188	207	65	453	106	7
岐 阜	385	256	80	49	381	211	4
静 岡	608	199	99	310	608	248	0
愛 知	139	96	28	15	127	76	12
三 重	277	189	81	7	276	122	1
滋 賀	72	15	14	43	57	40	15
京 都	159	51	41	67	140	98	19
大 阪	x	7	-	x	10	6	x
兵 庫	301	98	143	60	287	189	14
奈 良	125	107	x	x	125	67	0
和 歌 山	206	138	24	44	201	129	5
鳥 取	232	83	101	48	211	163	21
鳥 根	346	120	124	102	289	204	57
岡 山	427	348	23	56	389	100	38
広 島	347	152	81	114	267	136	80
山 口	221	123	46	52	198	135	23
徳 島	333	175	x	x	321	263	12
香 川	13	5	-	8	8	1	5
愛 媛	563	528	3	32	563	342	-
高 知	519	x	x	94	516	254	3
福 岡	402	343	7	52	395	353	7
佐 賀	130	109	1	20	119	66	11
長 崎	139	77	12	50	120	59	19
熊 本	938	752	123	63	907	686	31
大 分	1,129	892	210	27	1,116	929	13
宮 崎	2,042	1,830	164	48	2,026	1,931	16
鹿 児 島	664	417	132	115	596	514	68
沖 縄	x	x	-	x	0	-	x

資料：農林水産省「令和3年木材統計」

「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していないもの

木材需給情報-7 木材生産の産出額（2020年）

- 2020年の木材生産の都道府県別木材生産の産出額の合計は1,944億円。

単位：千万円

都道府県	木材生産	針葉樹					広葉樹	竹材
		スギ	ヒノキ	アカマツ・クロマツ	カラマツ・エゾマツ・トドマツ			
北海道	2,793	2,318	30	-	-	2,260	475	-
青森	744	679	540	0	43	60	65	-
岩手	1,307	1,035	551	0	155	329	259	-
宮城	438	406	375	4	21	4	30	2
秋田	1,002	905	871	-	2	28	95	-
山形	245	240	228	0	2	9	5	0
福島	688	606	478	71	26	28	80	-
茨城	392	368	252	114	1	0	24	-
栃木	587	551	363	185	1	1	30	2
群馬	172	168	115	19	1	31	4	-
埼玉	45	28	18	10	0	0	17	-
千葉	41	26	21	4	-	-	12	3
東京	19	16	7	9	-	0	2	-
神奈川県	11	10	5	5	-	0	1	-
新潟	103	96	96	0	0	0	6	0
富山	71	67	64	1	1	1	4	-
石川	132	115	93	6	8	1	16	0
福井	102	97	94	1	1	0	5	0
山梨	104	86	21	9	15	34	13	-
長野	463	436	59	95	32	240	17	-
岐阜	456	444	250	179	3	11	11	-
静岡県	307	304	135	165	1	2	2	-
愛知県	208	207	99	90	0	15	2	-
三重	320	316	131	182	0	-	4	-
滋賀	44	36	26	10	0	0	7	1
京都	116	94	66	23	0	-	17	5
大阪	5	5	3	2	0	-	0	-
兵庫	204	193	124	65	1	0	11	0
奈良	147	147	72	74	0	-	0	0
和歌山	140	134	73	61	0	-	4	2
鳥取	226	211	167	39	4	0	16	-
島根	397	321	255	52	14	0	76	-
岡山	446	435	68	363	3	-	8	3
広島	274	232	115	106	11	0	41	-
山口	230	209	140	67	2	-	20	1
徳島	281	275	214	60	1	-	6	0
香川	8	7	2	5	0	-	-	1
愛媛	550	549	260	287	2	-	-	0
高知	500	496	243	250	3	-	3	1
福岡	187	177	128	48	1	-	9	1
佐賀	125	115	67	48	0	-	9	0
長崎	100	81	30	52	-	-	18	-
熊本	1,142	1,108	739	366	3	-	26	8
大分	1,038	1,020	833	186	0	-	7	5
宮崎	1,977	1,950	1,814	131	4	-	26	-
鹿児島	548	475	405	62	1	-	58	15
沖縄	2	0	-	-	-	-	2	-
合計	19,437	17,796	10,739	3,506	364	3,055	1,541	49

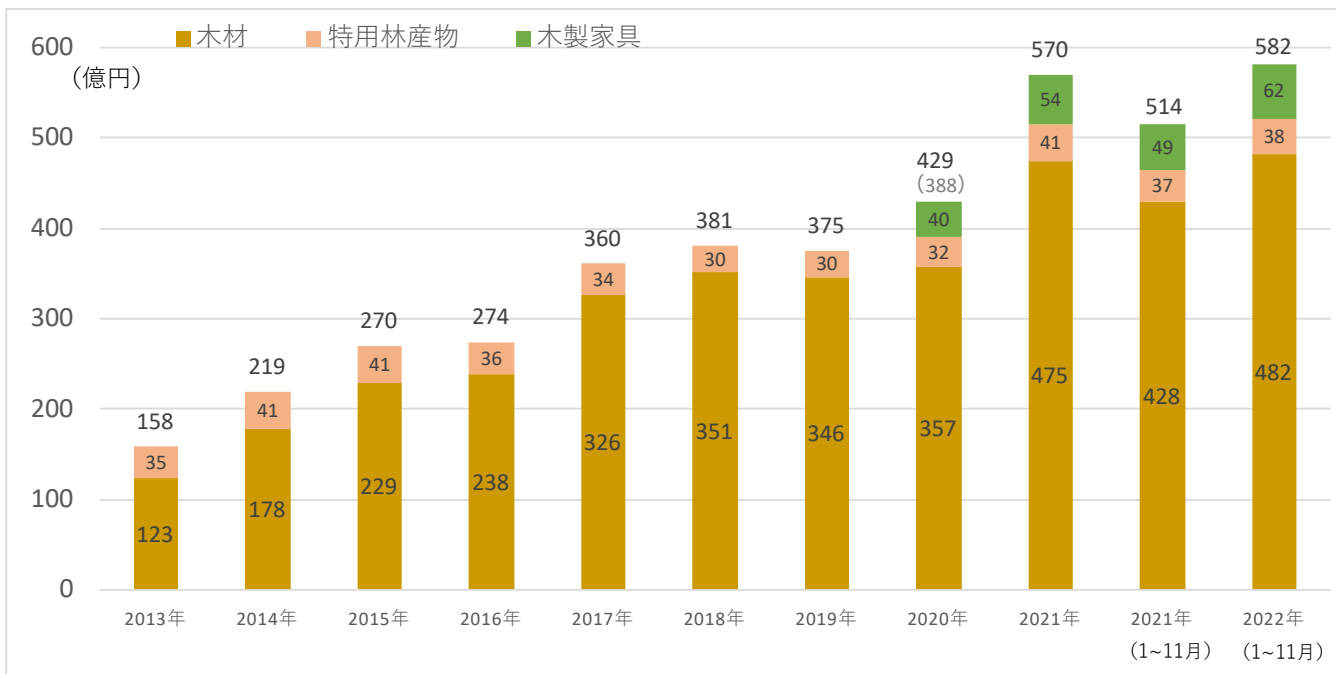
資料：農林水産省「令和2年林業産出額」

注：都道府県別産出額には、全国値には含まれる木材生産におけるパルプ工場に直接入荷されるパルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ素材の産出額を含まない。

また、全国値には含まない木材生産における県外移出されたしいたけ原木の産出額を含む。

- 令和4年11月の林産物の輸出額は55億円（前年同月比115%）となった。
- 内訳としては木材が45億円（同114%）、特用林産物が4億円（同91%）、木製家具が7億円（同143%）となった。
- 1～11月の累計は、582億円（前年同期比113%）となった。

○林産物輸出の推移



資料：財務省「貿易統計」

※特用林産物には、きのこ（はらたけ属以外）、乾しいたけ、ロジン、植物性ろう等が含まれる。なお、木質ペレット、薪、木炭は木材に含まれる。

※2020年の(388)は品目の見直しによる追加品目（木製家具、調整・保存処理したきのこ等）を含まない数字。

※四捨五入により、合計が合致しない場合がある。

○林産物の月別輸出額

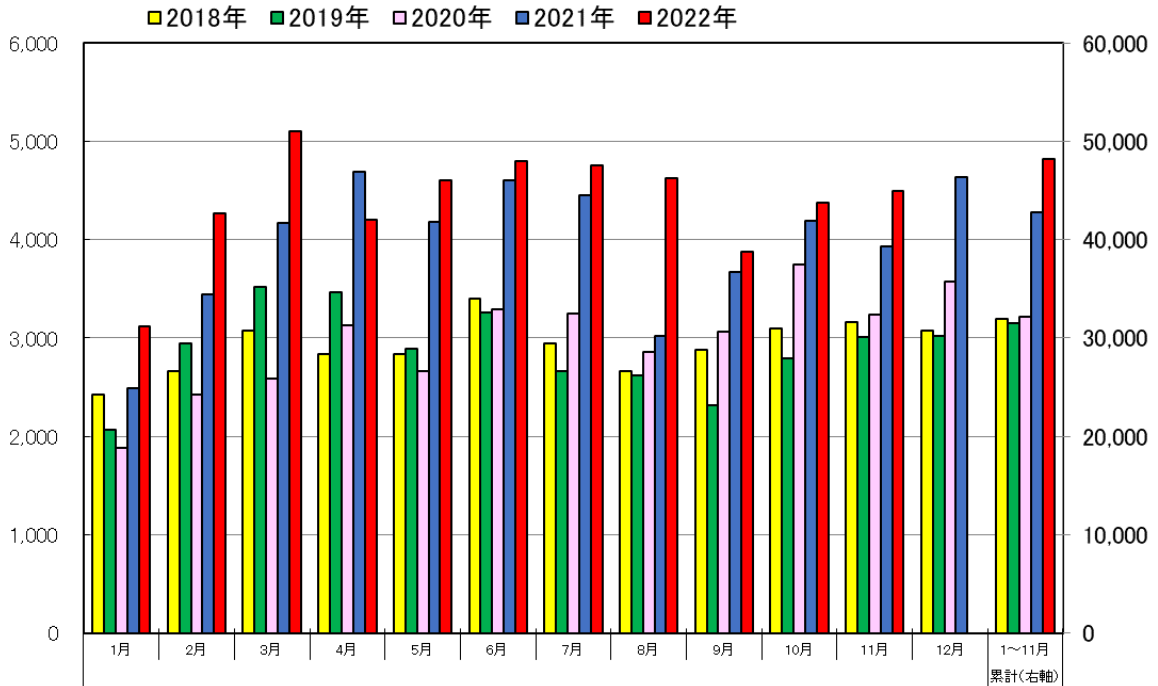
(億円)

	2021年				2022年					
	林産物	木材	特用林産物	木製家具	林産物	前年比	前々年比	木材	特用林産物	木製家具
1月	31	25	3	3	37	119%	157%	31	3	4
2月	41	34	4	3	50	121%	164%	43	3	4
3月	51	42	4	5	61	121%	192%	51	4	6
4月	55	47	3	5	51	92%	138%	42	3	5
5月	49	42	3	4	55	113%	176%	46	3	5
6月	54	46	3	5	58	107%	154%	48	4	6
7月	52	45	3	4	58	111%	156%	48	4	7
8月	37	30	3	5	56	149%	165%	46	3	6
9月	45	37	3	5	48	107%	130%	39	4	6
10月	52	42	4	5	54	104%	118%	44	4	6
11月	48	39	4	5	55	115%	139%	45	4	7
11月累計	514	428	37	49	582	113%	151%	482	38	62

資料：財務省貿易統計

- 令和4年(2022年)11月の輸出額は45.0億円(前年同月比114%)となった。2022年(1~11月)の累計は482億円(前年同期比113%)となった。
- 特に製材輸出については、フィリピン向け輸出が減少している一方で、台湾向け輸出が増加している。

○木材輸出額の推移(月別)



○木材輸出額の推移(主な国別・品目別)

輸出先	単月 11月					累計1~11月				
	輸出額	前年比	主要品目内訳(百万円) 前年比(%)			輸出額	前年比	主要品目内訳(百万円) 前年比(%)		
	(百万円)	(%)	丸太	製材	合板	(百万円)	(%)	丸太	製材	合板
中国	1,936	114%	1,523 119%	111 70%	23 46%	19,897	99%	15,366 98%	1,452 102%	327 60%
韓国	256	119%	142 176%	55 91%	0 0%	3,372	99%	1,903 100%	537 88%	36 86%
台湾	253	109%	100 68%	94 189%	0 -	2,565	119%	1,344 102%	643 127%	3 16%
米国	487	122%	0 -	165 74%	0 -	5,710	121%	0 -	2,741 85%	11 156%
フィリピン	1,240	115%	0 -	97 26%	1,100 181%	13,238	147%	0 -	2,780 122%	9,466 155%
その他	322	109%	21 284%	27 49%	3 511%	3,461	103%	277 8318%	520 82%	59 95%
総計	4,496	114%	1,787 118%	549 60%	1,126 170%	48,242	113%	18,891 98%	8,673 100%	9,903 146%

※資料：財務省貿易統計(第44類を集計)

※四捨五入により、数値が合わないことがある。

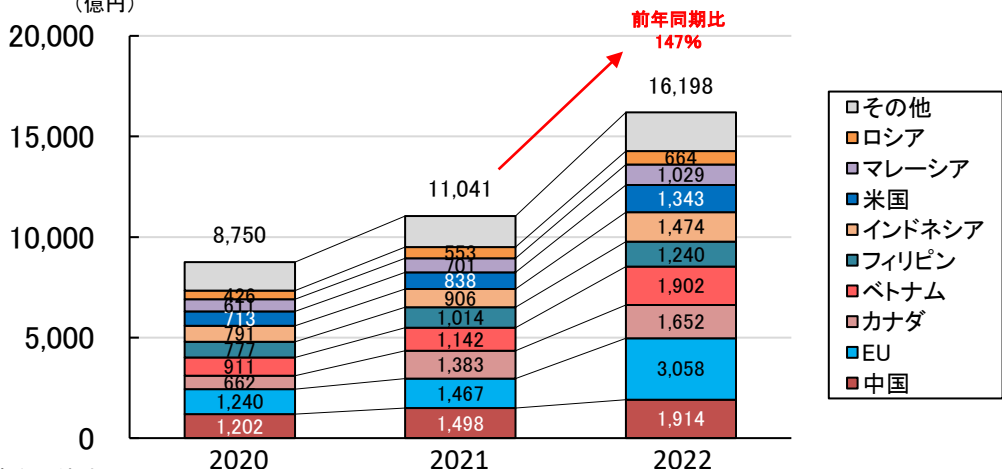
林産物輸出入情報-3 木材輸入額

- 2022年11月の木材輸入額は、前月比91%、前年同月比103%の1,383億円となった。
- 国別に、前月比で見ると、中国（前年輸入額に占めるシェア14%）が100%。また、EU（同14%）が71%、カナダ（同12%）が85%、ベトナム（同10%）が97%、フィリピン（同9%）が99%、インドネシア（同8%）が81%と減少する一方、米国（同7%）が115%と増加した。
- また、前年同月比で見ると、EUが72%、カナダが86%と減少する一方、中国が101%、ベトナムが151%、フィリピンが106%、インドネシアが129%、米国が144%と増加した。

(単位:億円)

年 国名	2021年 (1月～ 12月)	月別金額				累計金額		
		2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
世界計	12,291	1,517	1,383	91%	103%	11,041	16,198	147%
E U	1,712	248	177	71%	72%	1,467	3,058	208%
(フィンランド)	557	77	58	75%	77%	470	1,016	216%
(スウェーデン)	399	50	41	82%	61%	337	650	193%
中国	1,663	178	178	100%	101%	1,498	1,914	128%
カナダ	1,514	152	130	85%	86%	1,383	1,652	119%
ベトナム	1,268	207	200	97%	151%	1,142	1,902	167%
フィリピン	1,123	123	121	99%	106%	1,014	1,240	122%
インドネシア	1,029	160	129	81%	129%	906	1,474	163%
米国	914	115	133	115%	144%	838	1,343	160%
マレーシア	769	80	87	109%	131%	701	1,029	147%
ロシア	634	27	30	111%	33%	553	664	120%
その他	1,664	226	197	87%	115%	1,540	1,921	125%
我が国の総輸入額	845,898	111,772	108,661	97%	131%	761,197	1,079,216	142%
我が国の総輸入額に 占める木材輸入額の割合	1.45%	1.36%	1.27%			1.45%	1.50%	

○2020～2022年の1～11月における木材輸入額(累計)
(億円)



資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第44類（木材及びその製品並びに木炭）の合計（※次ページ以降に記載の品目の合計ではない）。

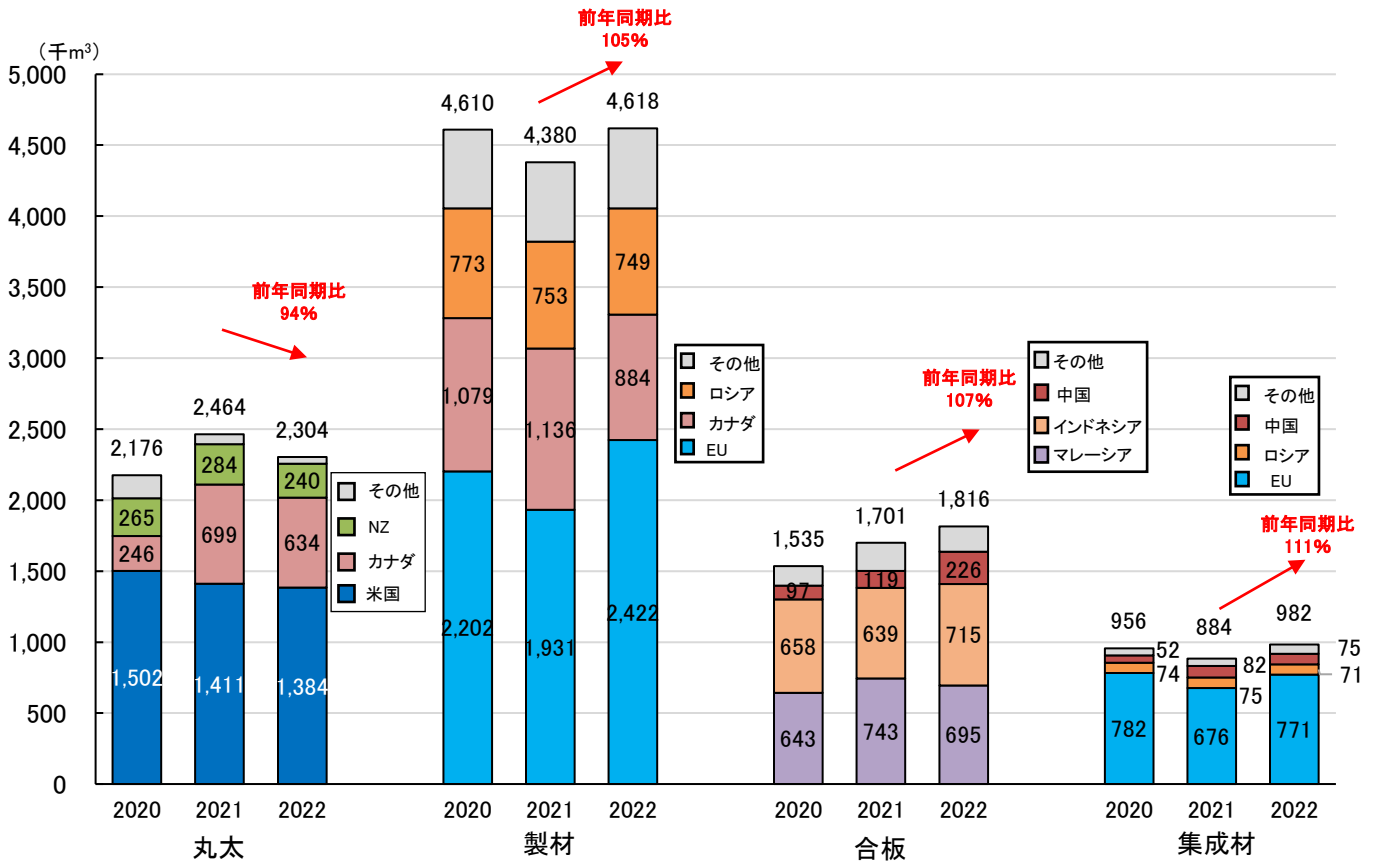
2：EUに英国は含まない。

3：EUは、フィンランド、スウェーデンの合計ではない。

林産物輸出入情報-3 木材輸入量（累計）

- 2022年1～11月における品目別の輸入量は、前年同期比で丸太が94%と減少する一方で、製材が105%、合板が107%、集成材が111%と、増加した。
- なお、2020年同期比では、丸太が106%、製材が100%、合板が118%、集成材が103%となった。

○2020～2022年の1～11月における品目別木材輸入量



資料：財務省貿易統計

注：2022年2月のエクアドルからの丸太(4403.99-990号)輸入量については、財務省に数値の確認中のため、集計からは除外している。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（丸太）

- 2022年11月の丸太輸入量は、前月比96%、前年同月比76%の17万³m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、カナダ（前年輸入量に占めるシェア28%）が35%と減少する一方、米国（同57%）が198%、ニュージーランド（同12%）が117%と増加した。
- 前年同月比で見ると、米国が66%、ニュージーランドが59%と減少する一方、カナダが217%と増加した。

（単位：千m³）

材種 国名	年	月別数量				累計数量			
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
合計	[100%] 2,639	[100%] 173	[100%] 165	96%	76%	[100%] 2,464	[100%] 2,304	94%	
米材	[86%] 2,257	[85%] 147	[80%] 133	90%	80%	[86%] 2,110	[88%] 2,018	96%	
米国	[57%] 1,511	[29%] 50	[60%] 99	198%	66%	[57%] 1,411	[60%] 1,384	98%	
カナダ	[28%] 746	[56%] 97	[20%] 34	35%	217%	[28%] 699	[28%] 634	91%	
南洋材	[1%] 21	[0%] 0	[2%] 3	1652%	243%	[1%] 18	[1%] 17	94%	
インドネシア	[0%] 0	[0%] 0	[0%] 0	35%	38%	[0%] 0	[0%] 0	248%	
マレーシア	[0%] 8	[0%] 0	[1%] 2	1441%	皆増	[0%] 8	[1%] 16	195%	
パプアニューギニア	[0%] 13	-	[1%] 1	皆増	90%	[0%] 10	[0%] 1	10%	
ロシア材	[1%] 35	-	-	-	0%	[1%] 34	[0%] 7	20%	
ニュージーランド材	[12%] 306	[15%] 25	[18%] 30	117%	59%	[12%] 284	[10%] 240	85%	
欧州材	[1%] 13	[0%] 0	[0%] 0	10%	3%	[1%] 12	[1%] 15	120%	
EU計	[1%] 13	[0%] 0	[0%] 0	10%	3%	[0%] 12	[1%] 15	120%	
アフリカ材	[0%] 2	[0%] 0	[0%] 0	849%	255%	[0%] 2	[0%] 2	120%	
中国	[0%] 1	[0%] 0	[0%] 0	32%	218%	[0%] 1	[0%] 2	203%	
その他	[0%] 3	[0%] 0	[0%] 0	111%	61%	[0%] 3	[0%] 3	112%	

資料：財務省貿易統計

注1：丸太は輸入統計品目表第4403項の合計。

2：米材は米国、カナダより輸入された材。

3：南洋材はインドネシア、マレーシア、パプアニューギニア、ソロモン諸島、フィリピン、シンガポール、ブルネイの7か国より輸入された材。

4：欧州材はロシアを除く全ての欧州各国より輸入された材。

5：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

6：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

7：「-」は輸入実績なし等。

8：EUに英国は含まない。

9：2022年2月のエクアドルからの丸太（4403.99-990号）輸入量については、財務省に数値の確認中のため、集計からは除外している。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（製材）

- 2022年11月の製材輸入量は、前月比85%、前年同月比64%の29万^m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、EU（前年輸入量に占めるシェア44%）が74%と減少する一方、カナダ（同25%）が125%、ロシア（同18%）が126%と増加した。
- 前年同月比で見ると、カナダが75%、ロシアが39%、EUが69%と減少した。

（単位：千^m³）

材種 国名	年 2021年 (1月～ 12月)	月別数量				累計数量		
		2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
合計	[100%] 4,830	[100%] 343	[100%] 292			[100%] 4,380	[100%] 4,618	
米材	[28%] 1,361	[20%] 70	[28%] 83			[29%] 1,260	[22%] 1,008	
米国	[3%] 135	[4%] 13	[4%] 11	91%	124%	[3%] 123	[3%] 124	101%
カナダ	[25%] 1,226	[17%] 57	[24%] 71	125%	75%	[26%] 1,136	[19%] 884	78%
南洋材	[1%] 56	[2%] 6	[2%] 6	106%	128%	[1%] 50	[1%] 58	116%
インドネシア	[0%] 20	[0%] 2	[1%] 2	135%	126%	[0%] 18	[0%] 20	109%
マレーシア	[1%] 34	[1%] 4	[1%] 4	100%	140%	[1%] 30	[1%] 37	125%
パプアニューギニア	[0%] 0	[0%] 0	-	0%	-	[0%] 0	[0%] 0	63%
ロシア材	[18%] 846	[9%] 30	[13%] 38	126%	39%	[17%] 753	[16%] 749	99%
ニュージーランド材	[1%] 57	[1%] 5	[1%] 2	41%	30%	[1%] 52	[1%] 43	83%
チリ材	[5%] 226	[10%] 33	[4%] 11	34%	52%	[5%] 211	[5%] 224	106%
欧州材	[46%] 2,210	[57%] 195	[50%] 146	75%	68%	[45%] 1,989	[54%] 2,473	124%
EU計	[44%] 2,148	[56%] 193	[49%] 143	74%	69%	[44%] 1,931	[52%] 2,422	125%
(スウェーデン)	[16%] 756	[17%] 59	[17%] 50	85%	62%	[16%] 680	[17%] 798	117%
(フィンランド)	[15%] 729	[16%] 53	[16%] 48	90%	77%	[15%] 649	[17%] 787	121%
アフリカ材	[0%] 2	[0%] 0	[0%] 0	161%	260%	[0%] 1	[0%] 2	134%
中国	[1%] 64	[1%] 3	[1%] 4	121%	51%	[1%] 56	[1%] 53	95%
その他	[0%] 9	[0%] 1	[0%] 1	128%	124%	[0%] 8	[0%] 8	100%

資料：財務省貿易統計

注1：製材は輸入統計品目表第4407項の合計。

2：米材は米国、カナダより輸入された材。

3：南洋材はインドネシア、マレーシア、パプアニューギニア、ソロモン諸島、フィリピン、シガポール、ブルネイの7か国より輸入された材。

4：欧州材はロシアを除く全ての欧州各国より輸入された材。

5：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

6：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

7：「-」は輸入実績なし等。

8：EUに英国は含まない。

9：EUは、フィンランド、スウェーデンの合計ではない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（合板、木材チップ）

- 2022年11月の合板輸入量は、前月比92%、前年同月比76%の13万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、インドネシア（前年輸入量に占めるシェア38%）が76%と減少する一方、マレーシア（同43%）が115%と増加した。
- 前年同月比で見ると、マレーシアが74%、インドネシアが76%と減少した。

(単位:千m³)

国名	年	月別数量				累計数量			
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 1,865	[100%] 136	[100%] 125	92%	76%	[100%] 1,701	[100%] 1,816	107%	
マレーシア	[43%] 795	[29%] 39	[36%] 45	115%	74%	[44%] 743	[38%] 695	94%	
インドネシア	[38%] 715	[48%] 66	[40%] 50	76%	76%	[38%] 639	[39%] 715	112%	
ベトナム	[11%] 207	[13%] 17	[13%] 16	93%	73%	[11%] 186	[9%] 164	88%	
中国	[7%] 133	[10%] 13	[10%] 13	97%	89%	[7%] 119	[12%] 226	190%	
EU	[0%] 6	[0%] 0	[0%] 0	116%	86%	[0%] 6	[0%] 6	104%	
その他	[0%] 9	[1%] 1	[1%] 1	128%	91%	[0%] 8	[1%] 9	124%	

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.10号111～299、第4412.31号、第4412.33号、第4412.34号、第4412.39号の合計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

4：EUに英国は含まない。

- 2022年11月の木材チップ輸入量は、前月比91%、前年同月比92%の91万トンとなった。
- 国別に、前月比で見ると、オーストラリア（前年輸入量に占めるシェア18%）が71%、チリ（同10%）が34%と減少する一方、ベトナム（同38%）が110%と増加した。
- 前年同月比で見ると、ベトナムが95%、オーストラリアが78%、チリが88%と軒並み減少した。

(単位:千トン)

国名	年	月別数量				累計数量			
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 10,996	[100%] 1,007	[100%] 914	91%	92%	[100%] 10,190	[100%] 10,316	101%	
ベトナム	[38%] 4,132	[34%] 337	[41%] 371	110%	95%	[37%] 3,811	[39%] 3,989	105%	
オーストラリア	[18%] 1,947	[20%] 206	[16%] 145	71%	78%	[18%] 1,858	[17%] 1,772	95%	
チリ	[10%] 1,060	[8%] 76	[3%] 26	34%	88%	[10%] 998	[8%] 786	79%	
南アフリカ共和国	[9%] 1,026	[9%] 88	[13%] 121	138%	128%	[9%] 927	[10%] 1,035	112%	
米国	[7%] 811	[10%] 102	[9%] 78	76%	125%	[7%] 749	[8%] 836	112%	
その他	[18%] 2,020	[20%] 199	[19%] 173	87%	76%	[18%] 1,848	[18%] 1,898	103%	

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4401.21号と第4401.22号の合計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（集成材）

- 2022年11月の集成材輸入量は、前月比74%、前年同月比51%の5.3万m³となった。構造用集成材に限ると、前月比75%、前年同月比51%の4.5万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、EU（前年輸入量に占めるシェア76%）が74%、中国（同10%）が83%、ロシア（同9%）が72%と軒並み減少した。EUの国別内訳では、フィンランド（同36%）が67%、ルーマニア（同15%）が48%、オーストリア（同13%）が91%と減少した。
- 前年同月比で見ると、EUが53%、中国が41%、ロシアが36%と軒並み減少した。

（単位：千m³）

国名	年	2021年 (1月～12 月)	月別数量				累計数量		
			2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1 ～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
総輸入量		[100%] 967	[100%] 72	[100%] 53	74%	51%	[100%] 884	[100%] 982	111%
	うち 構造用集成材	[100%] 832	[100%] 60	[100%] 45	75%	51%	[100%] 762	[100%] 857	112%
EU		[76%] 733	[78%] 56	[79%] 42	74%	53%	[76%] 676	[78%] 771	114%
	うち 構造用集成材	[85%] 709	[89%] 54	[89%] 40	75%	53%	[86%] 654	[88%] 751	115%
フィンランド		[36%] 349	[43%] 31	[39%] 20	67%	65%	[37%] 324	[37%] 361	111%
	うち 構造用集成材	[41%] 345	[50%] 30	[44%] 20	67%	65%	[42%] 320	[42%] 358	112%
ルーマニア		[15%] 148	[8%] 5	[5%] 3	48%	12%	[15%] 135	[16%] 153	113%
	うち 構造用集成材	[17%] 139	[8%] 5	[5%] 2	51%	11%	[17%] 127	[17%] 145	114%
オーストリア		[13%] 126	[14%] 10	[17%] 9	91%	60%	[13%] 117	[12%] 118	101%
	うち 構造用集成材	[14%] 116	[15%] 9	[18%] 8	93%	61%	[14%] 108	[13%] 110	102%
中国		[10%] 93	[7%] 5	[8%] 4	83%	41%	[9%] 82	[8%] 75	91%
	うち 構造用集成材	[6%] 52	[4%] 3	[5%] 2	88%	48%	[6%] 45	[5%] 45	99%
ロシア		[9%] 84	[6%] 4	[6%] 3	72%	36%	[8%] 75	[7%] 71	96%
	うち 構造用集成材	[9%] 71	[6%] 4	[6%] 3	73%	38%	[8%] 63	[7%] 61	97%
その他		[6%] 57	[9%] 6	[7%] 4	61%	74%	[6%] 51	[7%] 65	127%
	うち 構造用集成材	[0%] 0	-	-	-	-	[0%] 0	[0%] 0	178%

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.10号910、第4412.51号100、第4412.59号100、第4412.91号100、第4412.92号100、第4412.99号110、190と、第4418.81号（構造用集成材）の合計。

2：数量の上段の〔 〕書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

4：「-」は輸入実績なし等。

5：EUに英国は含まない。

6：EUはフィンランド、ルーマニア、オーストリアの合計ではない。

林産物輸出入情報-4 木材輸入量（木質ペレット、LVL）

- 2022年11月の木質ペレット輸入量は、前月比75%、前年同月比85%の32万トンとなった。
- 国別に、前月比で見ると、ベトナム（前年輸入量に占めるシェア53%）が71%と減少する一方、カナダ（同34%）が128%と増加した。
- 前年同月比で見ると、ベトナムが85%、カナダが97%と減少した。

（単位：千トン）

国名	年	月別数量				累計数量			
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
総輸入量	[100%] 3,117	[100%] 430	[100%] 322	75%	85%	[100%] 2,833	[100%] 4,078	144%	
ベトナム	[53%] 1,647	[50%] 216	[47%] 153	71%	85%	[51%] 1,445	[54%] 2,182	151%	
カナダ	[34%] 1,058	[23%] 100	[40%] 128	128%	97%	[35%] 1,000	[31%] 1,269	127%	
マレーシア	[5%] 156	[4%] 18	[5%] 16	89%	72%	[5%] 144	[3%] 110	76%	
その他	[8%] 256	[22%] 96	[8%] 25	27%	54%	[9%] 244	[13%] 517	211%	

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4401.31号000を集計。

2：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

3：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

- 2022年11月のLVL輸入量は、前月比89%の4.3万m³となった。
- 国別に、前月比で見ると、中国が92%と減少した。

（単位：千m³）

国名	年	月別数量				累計数量			
		2021年 (1月～ 12月)	2022年 10月	2022年 11月	前月比	前年 同月比	2021年 1～11月	2022年 1～11月	前年 同期比
総輸入量		[100%] 48	[100%] 43	89%		[100%] 475			
中国		[75%] 36	[78%] 33	92%		[75%] 358			
ベトナム		[22%] 11	[19%] 8	77%		[20%] 96			
インドネシア		[3%] 1	[3%] 1	82%		[4%] 18			
その他		[0%] 0	[1%] 0	217%		[1%] 4			

資料：財務省貿易統計

注1：輸入統計品目表第4412.41号000、4412.42号000、4412.49号を集計。

2：LVLは、HSコードの改定に伴い、2022年1月1日より集計可能となったため、2021年以前のデータは存在しない。

3：数量の上段の[]書きは、総輸入量に占める各国の割合。

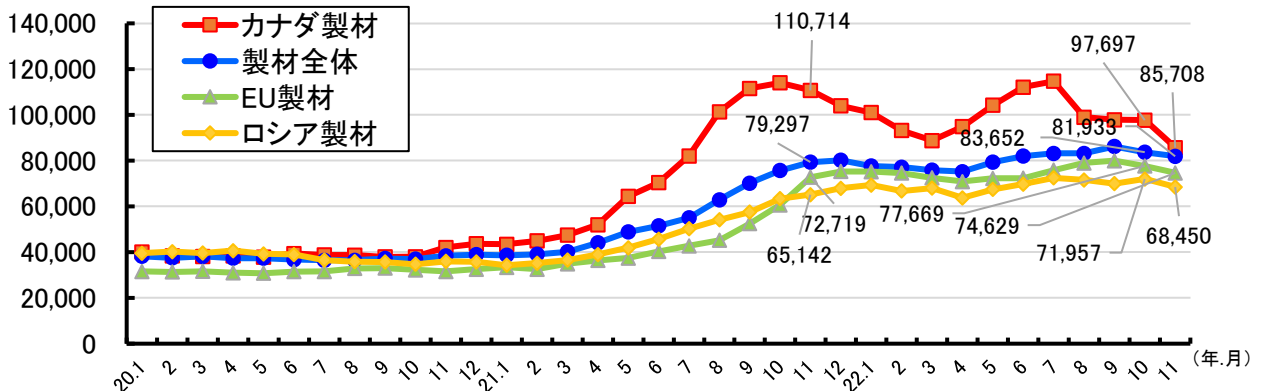
4：四捨五入の関係で計は必ずしも一致しない。

林産物輸出入情報-5 製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価

- 2022年11月の製材輸入平均単価（総輸入額/総輸入量）は、前月比98%の81,933円/m³（前年同月比103%）。うち、カナダの製材は前月比88%の85,708円/m³（同77%）、EUの製材は前月比96%の74,629円/m³（同103%）、ロシアの製材は前月比95%の68,450円/m³（同105%）。
- 同月のEUからの構造用集成材輸入平均単価は、前月比95%の110,641円/m³（同117%）。
- 同月の合板輸入平均単価は、前月比96%の112,514円/m³（同150%）。

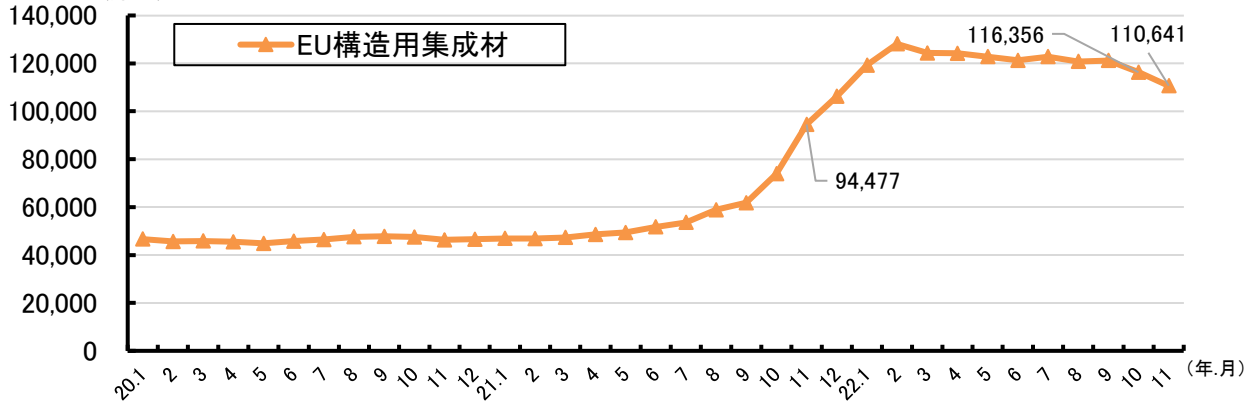
○製材の輸入平均単価

(円/m³)



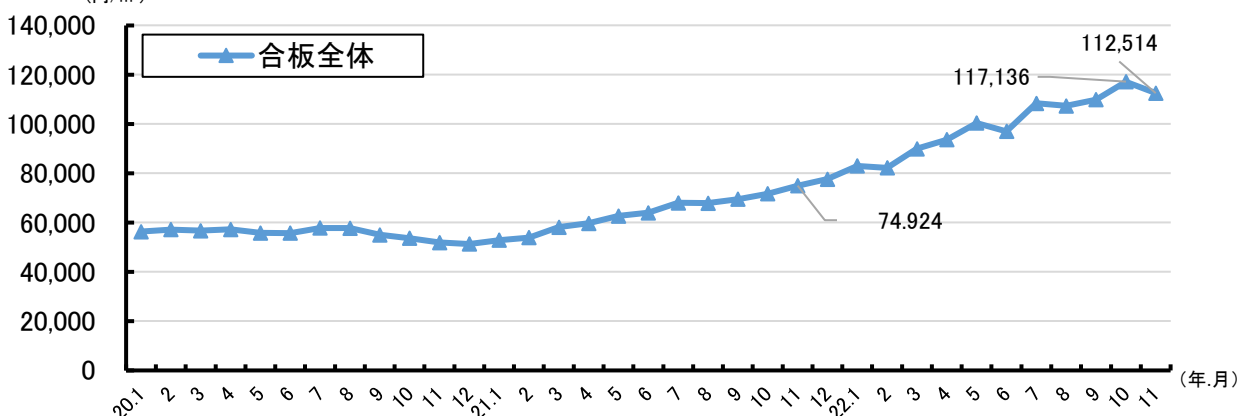
○構造用集成材の輸入平均単価

(円/m³)



○合板の輸入平均単価

(円/m³)



資料：財務省貿易統計

注：輸入平均単価は、総輸入額を総輸入量で割った値。

特用林産情報-1 特用林産物の国内生産量

- 2021年の食用きのこ類の生産量は46万2,021t（対前年比99.9%）となった。
- たけのこの生産量は1万9,917t（対前年比75.3%）となった。
- 木炭の生産量は1万1,806t（対前年比91.2%）となった。

○きのこ類

単位:t

年次	品目	きのこ類													
		しいたけ計	乾しいたけ	乾しいたけ (生換算値)	生しいたけ	きのこ類		なめこ	えのきたけ	ひらたけ	ぶなしめじ	まいたけ	エリンギ	きくらげ類	まつたけ
						原木栽培	菌床栽培								
2011	平成23	97,125	3,696	25,871	71,254	10,735	60,519	25,426	143,189	2,082	118,006	44,453	38,055	643	36
2012	24	92,414	3,705	25,938	66,476	8,426	58,050	25,816	134,097	1,883	122,276	43,251	38,163	819	16
2013	25	92,437	3,499	24,491	67,946	7,707	60,239	23,383	133,647	2,290	117,363	45,453	40,200	765	38
2014	26	89,093	3,175	22,222	66,872	7,437	59,435	21,796	135,919	2,327	115,751	49,541	39,645	894	42
2015	27	86,284	2,631	18,415	67,869	7,611	60,258	22,897	131,683	3,263	116,152	48,852	39,692	1,182	71
2016	28	88,241	2,735	19,141	69,100	7,324	61,778	22,935	133,297	3,449	116,271	48,523	40,475	1,278	69
2017	29	86,767	2,544	17,807	68,961	6,393	62,568	22,946	135,615	3,828	117,712	47,728	39,088	1,710	18
2018	30	88,196	2,635	18,442	69,754	5,965	63,789	22,809	140,038	4,001	117,916	49,670	39,413	2,309	56
2019	令和元	87,971	2,414	16,901	71,071	5,914	65,157	23,285	128,974	3,862	118,597	51,108	37,635	2,315	14
2020	2	86,394	2,302	16,115	70,280	5,396	64,884	22,835	127,914	3,824	122,802	54,993	38,500	3,132	32
2021	3	86,573	2,216	15,514	71,058	4,981	66,078	24,063	129,587	4,463	119,545	54,521	38,344	3,031	39

注:まつたけの1972年までの生産量は、『農林省統計表』による。

○その他食品

単位:t

年次	品目	その他食用		
		くり	たけのこ	わさび (根茎+葉柄)
2011	平成23	19,100	32,217	2,703
2012	24	20,900	39,244	2,670
2013	25	21,000	24,203	2,381
2014	26	21,400	36,364	2,429
2015	27	16,300	28,980	2,213
2016	28	16,500	35,592	2,266
2017	29	18,700	23,582	2,214
2018	30	16,500	25,364	2,080
2019	令和元	15,700	22,285	1,973
2020	2	16,900	26,449	2,017
2021	3	15,700	19,917	1,886

注:くりの2010年～2020年の生産量は、農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』、『令和2年産西洋なし、かき、くりの結果樹面積、収穫量及び出荷量』による。

○非食品

年次	品目	非食用																
		生うるし	木ろう	竹材	桐材	木炭	竹炭	オガ炭	オガライト	薪	木質粒状燃料	つばき油	しきみ	さかき	煉炭	豆炭	木酢液	竹酢液
		kg	t	千束	m	t	t	t	t	層積m	t	kl	千本、t	千本、t	t	t	kl	kl
2011	平成23	1,345	16	1,184	631	22,124	1,058	8,044	1,225	87,760	78,258	80	2,214	832	11,160	11,567	2,141	287
2012	24	1,438	18	1,193	589	22,646	1,002	6,615	1,051	62,071	98,184	44	2,176	860	10,840	11,567	2,136	242
2013	25	1,045	24	1,196	647	21,409	1,119	7,060	435	74,683	110,092	36	1,960	854	7,446	8,831	2,134	232
2014	26	1,003	28	1,173	669	20,281	599	6,869	318	84,659	126,035	50	1,750	832	7,841	10,742	2,100	213
2015	27	1,182	19	1,233	599	17,723	499	7,643	261	72,493	119,570	47	1,892	1,016	6,104	8,233	2,497	185
2016	28	1,294	24	1,272	492	16,769	411	6,553	185	82,584	120,162	70	1,873	1,091	5,123	7,262	2,774	203
2017	29	1,434	15	1,196	465	15,942	526	6,628	88	82,839	126,532	61	1,881	945	6,615	7,306	2,410	193
2018	30	1,845	41	1,143	404	14,699	534	6,479	79	76,659	131,401	45	1,586	811	5,936	6,846	2,450	197
2019	令和元	1,997	26	1,071	264	14,393	447	6,481	66	73,739	147,321	40	1,524	935	4,728	6,093	2,087	193
2020	2	2,051	21	1,030	200	12,945	451	6,363	31	83,536	148,726	42	1,672	866	4,054	5,735	1,743	151
2021	3	2,036	22	916	187	11,806	459	5,156	19	91,791	155,836	78	1,865	1,075	3,972	5,123	1,708	192

- 注:1 木炭、薪の昭和47年までに生産量は『農林省統計表』による。
- 2 木炭は平成3年から粉炭を含み、平成9年から竹炭を除く。
- 3 煉炭、豆炭の生産量は日本煉炭工業界調べによる
- 4 しきみ、さかきの単位を平成22年より千本からtに変更した。

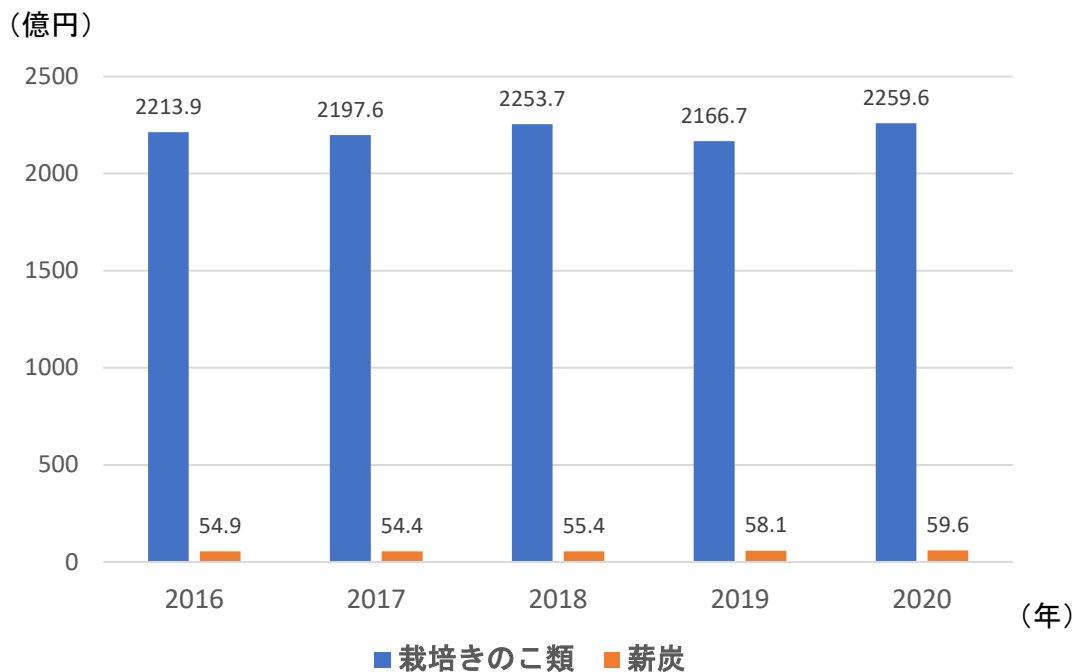
資料: 特用林産基礎資料(第一報)

特用林産情報-2 特用林産物の産出額

- 2020年のきのこ類の林業産出額は2,259.6億円（対前年比104.3%）となった。
- 薪炭の林業産出額は59.6億円（対前年比102.6%）となった。

（単位：億円）

	2016	2017	2018	2019	2020
栽培きのこ類	2,213.9	2,197.6	2,253.7	2,166.7	2,259.6
薪炭	54.9	54.4	55.4	58.1	59.6



資料：農林水産省「令和2年林業産出額」

特用林産情報-3 特用林産物の輸出入量

- 2022年11月までの乾しいたけの輸出量は33トン、生しいたけの輸出量は14トン。
- 2022年11月までの木炭の輸出量は165トン、輸入量は76,510トン。

品目	単位	2018		2019		2020		2021		2022. 1-11月	
		輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	輸入量
乾しいたけ	トン	24	4,998	33	4,869	33	4,354	41	4,575	33	4,196
生しいたけ	トン	…	1,942	…	1,835	…	1,785	…	1,988	14	1,915
なめこ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
えのきたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
ひらたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
ぶなしめじ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
まいたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
エリンギ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
きくらげ類	トン	46	26,696	89	25,320	14	23,190	66	22,060	71	22,690
まつたけ	トン	…	798	…	849	…	629	…	524	0	401
くり	トン	…	9,781	…	9,019	…	7,371	…	8,401	…	6,148
くるみ	トン	…	56,389	…	52,236	…	56,478	…	67,581	…	51,124
たけのこ	トン	…	167,868	…	157,296	…	142,544	…	149,778	…	140,732
ねまがりたけ	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
わさび	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
おうれん	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
きはだ皮	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
木ろう	トン	3	19	7	10	4	9	5	11	5	10
生うるし	kg	…	35,879	…	36,254	…	30,165	…	21,910	…	18,055
つばき油	kl	…	177	…	180	…	220	…	224	…	182
竹皮	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
竹材	千束	1	251	0	215	0	194	0	191	0	150
桐材	m ³	…	10,750	…	10,099	…	9,726	…	9,871	…	9,028
木炭	トン	442	144,462	460	143,953	439	79,739	270	84,224	165	76,510
竹炭	トン	…	8,744	…	9,414	12	7,605	2	6,790	4	8,198
木酢液	kl	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
竹酢液	kl	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
薪	層積m ³	833	476	788	1,830	468	2,326	490	7,099	416	4,120
オガライト	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
オガ炭	トン	…	53,679	…	54,183	…	44,499	…	37,584	…	39,552
煉炭	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
豆炭	トン	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…

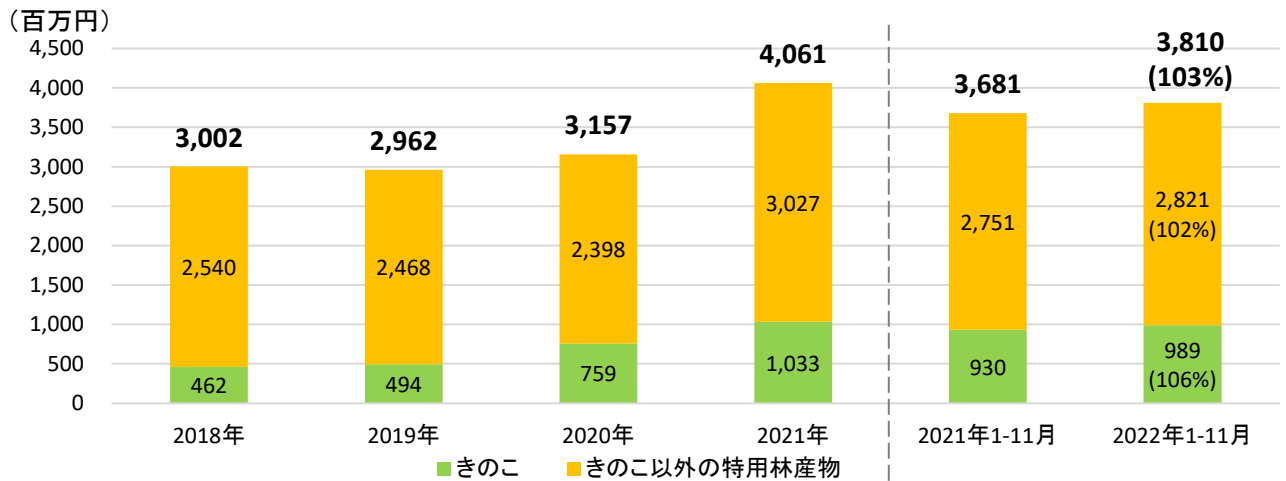
資料：財務省貿易統計

注：「…」は事実不詳又は調査を欠くもの。

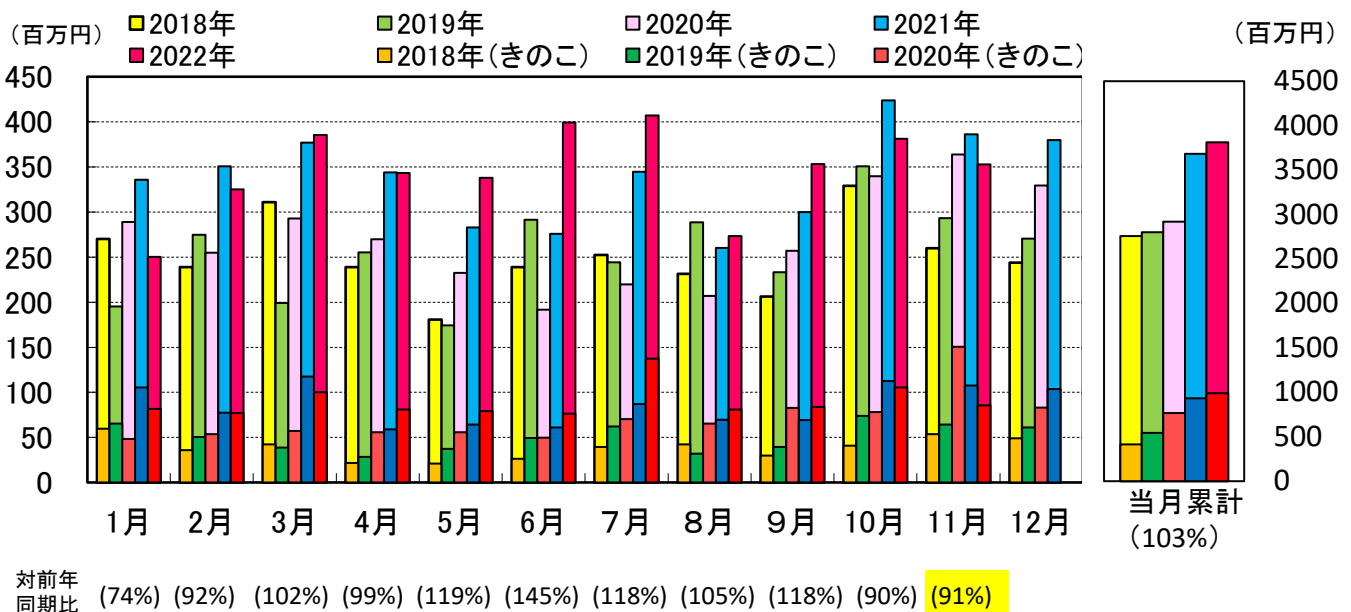
特用林産情報-4 特用林産物の輸出額①

- 2022年（1～11月）での特用林産物輸出額は3,810百万円（前年同期比103%）となった。内訳としては、きのこ（乾しいたけ含む）は、989百万円（対前年同期比106%）、きのこ以外は、2,821百万円（対前年同期比102%）となった。
- 11月輸出額は、353百万円（対前年同月比91%）となった。
- 内訳としては、きのこ（乾しいたけ含む）は86百万円（対前年同月比80%）、きのこ以外の特用林産物は267百万円（対前年同月比96%）となった。

○特用林産物輸出額全体の推移（累計）



○特用林産物輸出額全体の推移（月別）



資料：財務省貿易統計

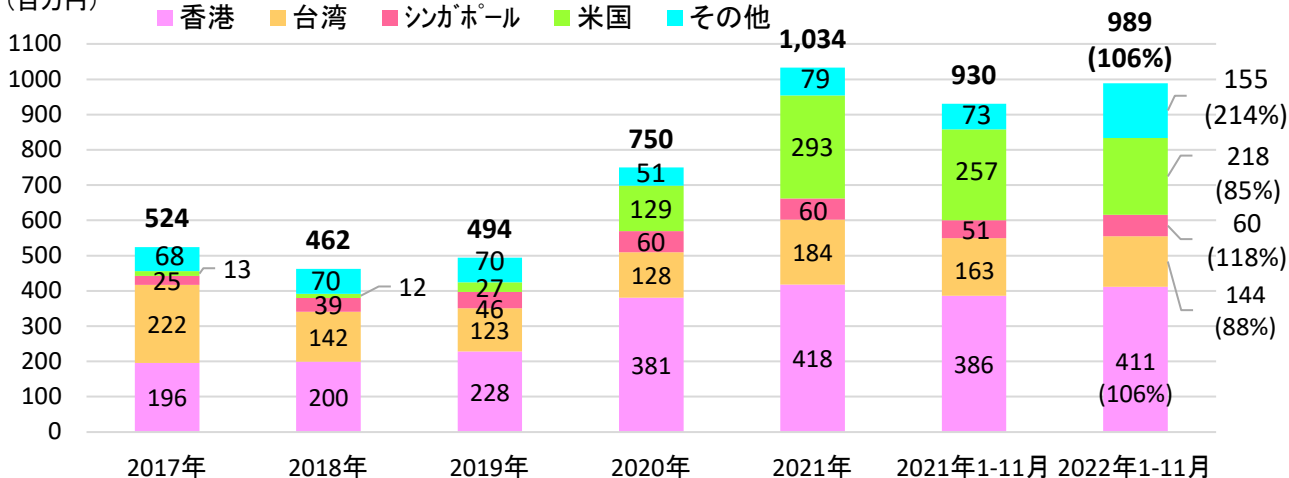
※生鮮きのこ、乾しいたけのほか、ロジン、植物性ろう等を含み、木質ペレット、チップ、薪、木炭は含まず。

※令和2年の定義見直しにより、令和3年実績から、乾燥きくらげ類、調整きのこ、保存処理をしたきのこ、しいたけ以外の乾燥きのこを計上した。

- 2022年（1～11月）のきのこの輸出額は989百万円で、対前年同期比106%となっている。国別には、主要な輸出先である香港が対前年同期比106%、台湾が88%、シンガポールが118%、米国が85%となっている。
- 同年同期の輸出量は1,343トンで、対前年同期比112%となっている。主要な輸出先では、香港が対前年同期比110%、台湾が97%、シンガポールが92%、米国が89%となっている。

〇きのこ（乾しいたけ含む）輸出額の推移（累計）

(百万円)



資料：財務省貿易統計

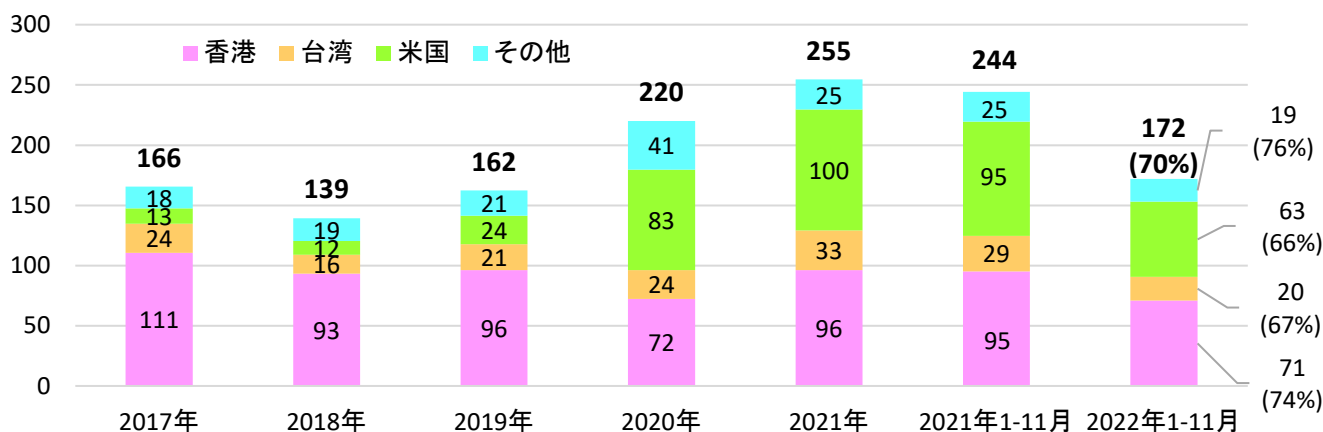
※()は対前年同期比

※令和2年の定義見直しにより、令和3年実績から、生鮮きのこ、乾しいたけに加え、乾燥きくらげ類、調整きのこ、保存処理をしたきのこ及びしいたけ以外の乾燥きのこを計上している。

- 2022年（1～11月）の乾しいたけの輸出額は172百万円で、対前年同期比70%となっている。国別には、主要な輸出先である香港が対前年同期比74%、台湾は67%、米国は66%となっている。
- 同年同期の輸出量は33トンで、対前年同期比86%となっている。主要な輸出先では、対前年同期比は香港が68%、台湾が48%、米国が113%となっている。

〇乾しいたけ輸出額の推移（累計）

(百万円)



資料：財務省貿易統計

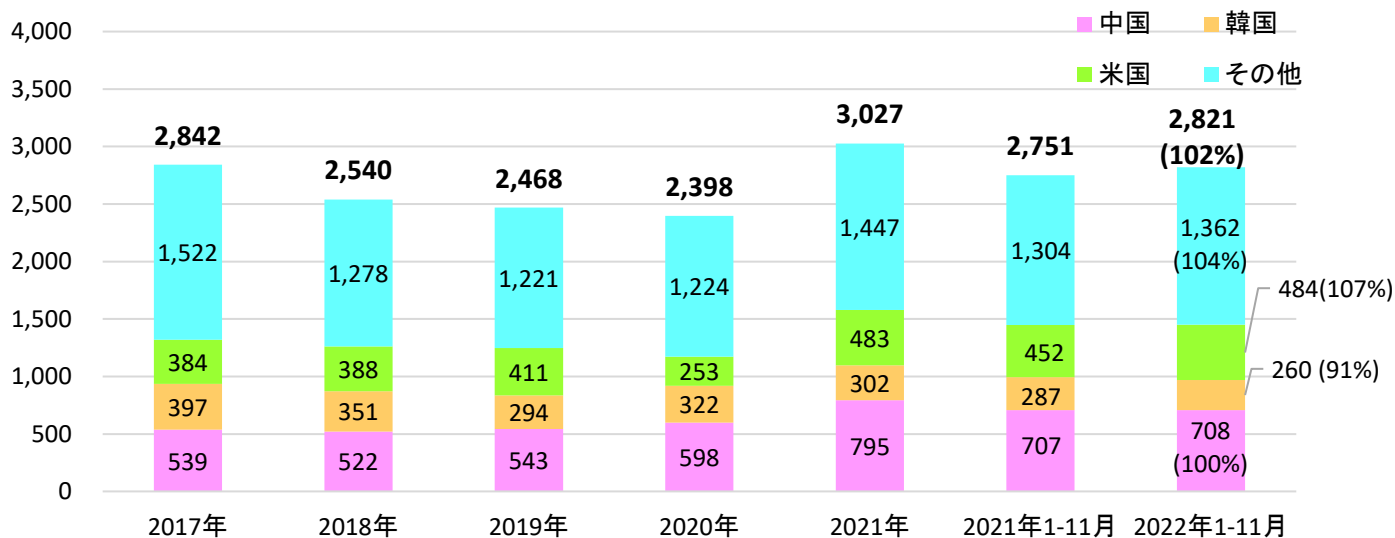
※()は対前年同期比

特用林産情報-4 特用林産物の輸出額③

- 2022年（1～11月）のきのこ以外の特用林産物の輸出額は2,821百万円で、対前年同期比102%となっている。国別には、中国が対前年同期比100%、韓国が91%、米国が107%となっている。取引額の大きい品目では、ロジン（松脂）が対前年同期比102%、植物性ろうが102%、テルペン油が125%となっている。
- 同年同期の輸出量は2,441トンで、対前年同期比91%となっている。主要な輸出先では、中国が対前年同期比92%、韓国が65%、米国が88%となっている。

○きのこ以外の特用林産物の輸出額の推移（累計）

（百万円）



資料：財務省貿易統計

※()は対前年同期比

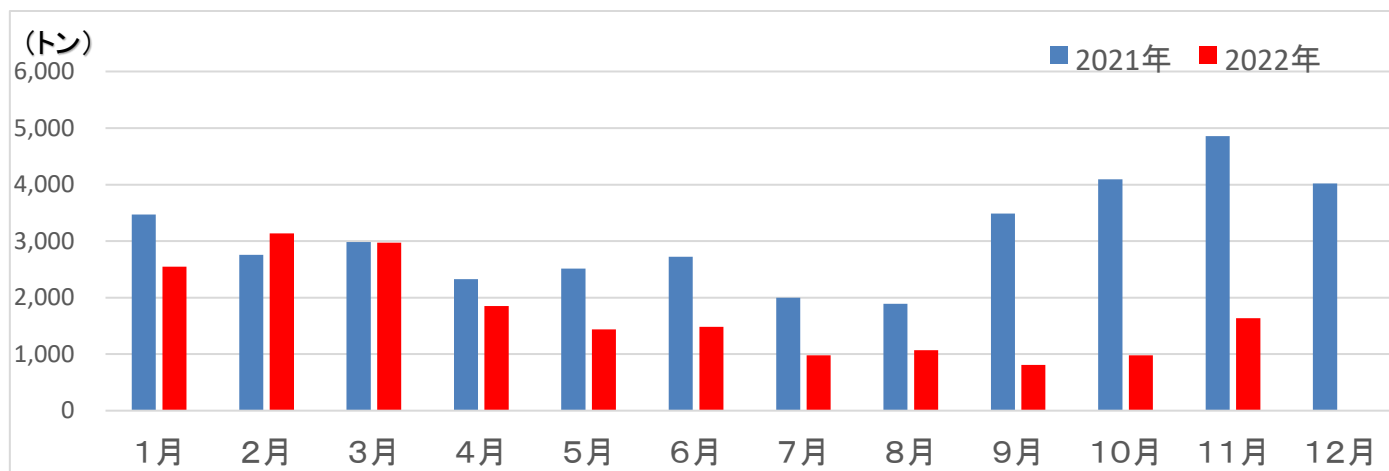
特用林産情報-5 中国からのしいたけ菌糸輸入量

- 中国からのしいたけ菌糸の輸入量は近年増加傾向にあるが、2022年4月以降は減少傾向に転じている。
- 2022年の月別の輸入量について前年と比較すると、4月以降の輸入量に減少が見られ、直近の11月には、前年の4,856トンから1,634トン（対前年同期比33.6%）へと大幅に減少。

○中国からのしいたけ菌糸輸入量（月別）

（単位：トン）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	3,472	2,757	2,984	2,330	2,513	2,722	1,996	1,889	3,488	4,092	4,856	4,022
2022年	2,548	3,136	2,975	1,850	1,439	1,482	980	1,068	808	979	1,634	



資料：財務省貿易統計

- 2022年12月のきのごの卸売数量は、9,454トン（対前年同月比102.2%）となった。
- 2022年12月のきのごの卸売総額は、5,249百万円（対前年比113.2%）となった。

きのご類の卸売数量

単位：トン

	2019年	2020年	2021年	2021年 12月	2022 7月	2022 8月	2022 9月	2022 10月	2022 11月	2022 12月
生しいたけ	49,121	48,466	47,744	2,118	1,182	1,144	1,315	1,669	1,766	2,067
なめこ	16,193	16,889	16,285	532	464	456	497	522	484	521
えのきだけ	106,291	98,312	99,571	4,359	2,162	2,462	3,233	3,956	3,762	4,435
しめじ	65,619	62,573	62,049	2,237	1,696	1,864	2,295	2,505	2,188	2,431
合計	237,224	226,240	225,649	9,246	5,504	5,926	7,340	8,652	8,200	9,454

きのご類の卸売総額

単位：百万円

	2019年	2020年	2021年	2021年 12月	2022 7月	2022 8月	2022 9月	2022 10月	2022 11月	2022 12月
生しいたけ	43,515	43,781	41,270	2,252	910	947	1,260	1,717	1,748	2,402
なめこ	7,248	7,431	7,032	230	183	183	229	258	243	241
えのきだけ	24,222	26,245	23,267	1,115	348	356	742	1,039	1,125	1,480
しめじ	28,912	28,688	25,099	1,038	433	456	808	1,108	1,075	1,126
合計	103,898	106,144	96,668	4,635	1,874	1,942	3,040	4,121	4,190	5,249

きのご類の卸売単価

単位：円/kg

	2019年	2020年	2021年	2021年 12月	2022 7月	2022 8月	2022 9月	2022 10月	2022 11月	2022 12月
生しいたけ	886	903	864	1,063	770	827	958	1,029	990	1,162
なめこ	448	440	432	432	395	401	461	493	502	463
えのきだけ	228	267	234	256	161	145	230	263	299	334
しめじ	441	458	404	464	255	245	352	442	491	463

資料：農林水産省「青果物卸売調査」

セミナー・イベント情報

林野庁が関係（主催・後援等）する各種セミナー・イベントの情報をご紹介します。

■ 1月中旬以降の開催情報

イベント名	開催日時	会場	イベント概要
WOOD コレクション (モクコレ) 2023	オンライン展示会 1月17日(火) ～2月17日(金) リアル展示会 1月31日(火) ～2月1日(水)	東京ビッグ サイト 西1・2 ホール (オンライン 併用)	東京都と全国の道府県が連携する、建材や雑貨、玩具など、業種や商材にとらわれない国産木材専門のイベントです。 主催：WOODコレクション（モクコレ） 実行委員会 事前申込：要（ウェブサイトから事前登録） 参加費：無料 詳細： https://www.mokucolle.com/jp
第30回日本 文化を担う・ 漆の美展	1月20日(金) ～26日(木)	東京都 美術館 ギャ ラリーB	「漆の美の今の姿」を広く社会に伝える作品を展示し、特に優れたものを評価、表彰します。 主催：（一社）日本漆工協会 事前申込：不要 入場料：無料 詳細： http://www.nihon-shikkou-kyokai.or.jp/
第68回 日本山林 美術展	1月30日(月) ～2月5日(日)	銀座アート ホール	日本の山林風景の美しさを求めて制作された作品を展示します。 主催：日本山林美術協会 事前申込：不要 入場料：無料 詳細： http://sanrin.biz/index.html
令和4年度国際 セミナー 「森林の防災・ 減災機能を強化 する技術の海外 展開と民間企業 の参画」	2月1日(水)	日比谷国際 コンファレン ススクエア (オンライン 併用)	我が国の治山技術の海外展開に向け、国際ニーズや経験、課題等について報告・議論する国際セミナーです。 主催：国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 事前申込：要 参加費：無料 詳細： http://redd.ffpri.affrc.go.jp/events/seminars/2023/20230201_ja.html
森林の仕事 エリア ガイダンス	2月4日(土) 島根県 2月5日(日) 福岡県・佐賀県・長崎 県・大分県・宮崎県の 共同開催 2月25日(土) 宮崎県	全国3会場 (詳細はHP 参照)	森林・林業に関心を持つ方や就業を考える方を対象に実施する説明会・相談会です。 主催：各県森林組合連合会、 林業労働力確保支援センター等 事前申込：要の場合あり（詳細はHP参照） 参加費：無料 詳細： https://www.ringyou.net/area_guidance/

セミナー・イベント情報

イベント名	開催日時	会場	イベント概要
第8回 木育・森育楽会	2月19日(日) 、23日(木・祝)	オンライン	「木育の知と経験」を集積、再分配、配信するための木育に関心のある方々の集会として、「木育・森育楽会」が開催されます。 主催：木育・森育学会実行委員会 NPO法人木育・木づかいネット 事前申込：要 (ウェブサイトにて1月下旬から開始予定) 詳細： https://www.mokumori-gakkai.org/
建築・建材展 2023	2月28日(火) ～3月3日(金)	東京国際 展示場「ビッグ サイト」 東展示棟 (オンライン 展も開催)	安心・安全で快適な住環境、商環境の実現に不可欠な各種建材及び関連設備機器などを一堂に集め展示します。 主催：(株)日本経済新聞社 参加費：3,000円 (ウェブサイトからの事前登録で無料) 詳細： https://messe.nikkei.co.jp/ac/info.html
林野庁×日比谷 カレッジ これからの森林。 可能性は、無限 大。 ～国民参加の 森林づくり、 建築物の木造化、 森林と健康～	3月24日(金)	日比谷 図書文化館 地下1階 コンベンショ ンホール (大ホール)	森林や木材利用がもたらす効果について、森の楽しみ方や科学的知見も交えて解説する講座を開催します。 主催：千代田区立日比谷図書文化館 事前申込：要(1月20日から申込開始予定) 参加費：1,000円 詳細： https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/infoevents/hibiyacollege/
理想のすまいと 建築フェア	6月8日(木)～9日(金)	インテックス 大阪	建築材料及び住宅設備に関する機器・技術を総合的に展示し、広く住宅・非住宅関連の最新情報を提供します。 主催：(一社)日本建築材料協会 日本経済新聞社、テレビ大阪 事前申込：要 入場料：無料 詳細： http://ken-ten.jp/

お知らせ

ウッド・チェンジ ロゴマーク 活用のご案内

ウッド・チェンジ ロゴマークは、「ウッド・チェンジ (※)」の趣旨に賛同し、木材利用の取組を積極的に推進していることのPRにご使用いただけます！（例：ポスター、チラシ、webサイト等）

広くロゴマークをご使用いただくことで、「ウッド・チェンジ」の輪が大きくなり、「木づかい運動」を盛り上げ、木材利用の需要拡大につながります。多くの方の使用登録をお待ちしています！

(※) ウッド・チェンジとは、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れる、建築物を木造・木質化するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指します。

【背景】

林野庁では、日本の森林の健全な維持やカーボンニュートラルにつながる「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を促進するため、建築物等の木造・木質化や身近なものの木製品化による木材利用拡大に取り組んでいます。

その一環で国民運動として「木づかい運動」を展開しており、「ウッド・チェンジ」を合言葉に様々な取組を行っています。



WOOD ▲ CHANGE

WOOD ▲ CHANGE



【ロゴマークの使用申請について】

1. ウッド・チェンジ ロゴマーク使用規程をご確認の上、内容にご了承いただける場合には、使用を開始する日の5日前（土、日、祝日の日数は算入しない）までに、登録フォームに必要事項を入力して申請してください。
2. 使用を認められないと判断される場合のみ、遅滞なく通知いたします。

(注) 使用が認められない場合の例として、営利を主たる目的とする場合が該当します。

例えば、販売して収益を上げる予定の布バッグやTシャツの柄としてロゴマークをプリントするなど、商品そのものへのマークの使用はお控えください。

なお、商品のチラシやパッケージ、イベントで着用するTシャツや配布者自ら製作する頒布品等に使用することは問題ありません。

ロゴマークの使用規程・ガイドライン、申請登録フォームなど、詳細はこちらから↓

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/wood-change-logo.html>

お問い合わせ先：林野庁木材利用課 消費対策班 (TEL : 03-6744-2298)



林業信用保証のご案内

公的機関が林業・木材産業に必要な資金の保証を行います

■ 一般資金への保証

林業・木材産業に必要な運転資金及び設備資金を幅広く対象にする保証です。
(原則80%保証。一被保証者当たりの保証限度額は財務状況に応じて6億円以下です。)

■ 林業・木材産業災害復旧対策保証

林野庁長官が指定した災害（新型コロナウイルス感染症、原油価格・物価高騰等による影響を含む。）による影響を受けた方の復旧、資金繰り安定化のための資金に対する保証です。
(最大5年間保証料免除。罹災証明書等をご準備いただくことが必要です。)

■ 制度資金への保証

林業・木材産業の経営改善のための新たな計画や事業を合理化する計画を作成して、都道府県知事の認定を受けた方が、計画に従って事業を行うための資金に対する保証です。
林業・木材産業改善資金、木材産業等高度化推進資金の保証も行っています。
(都道府県による貸付限度額の定めがあります。)

● 林業・木材産業改善資金

林業・木材産業の経営の改善を目的として、新たな取組を行うために必要な**設備資金を無利子で融資**する制度です。

● 木材産業等高度化推進資金

木材の生産及び流通を円滑にすることや効率的・安定的な林業経営を図るために必要な**運転資金を低利で融資**する制度です。

※保証のご利用には審査があります。審査の結果、ご希望に添えない場合があります。

【相談窓口】

独立行政法人農林漁業信用基金

電話：03-3434-7825（林業業務推進課：都道府県又は一般の方）

03-3434-7826、7827（業務課：融資機関の方）

制度の概要、活用事例などはこちら

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>

お気軽にご相談ください。



お知らせ

林業・木材産業関係者の方向けに 税制支援があります！



森林・林業・木材産業の発展のために税制上の支援を行っております。
目的に応じて、様々な措置を活用いただくことができます。

森林所有者向け 山林所得に係る税を軽減できないか

森林経営計画を作成し、市町村長等の認定を受けることにより、その計画に基づく立木の伐採又は譲渡を行った際の収入金額から伐採経費や譲渡経費を除いた金額（立木収入）の20%相当額※を、山林所得の申告の際に控除できます！

※ 立木収入が2千万円を超える場合には、その超える部分については10%の控除となります。

対象者 森林経営計画の認定を受けている森林の森林所有者

対象 令和5年、6年の山林所得



林業、木材産業事業者向け 燃料費が高騰する中、経費を削減できないか

林業、木材加工用等の機械等に使用する軽油は、免税証の交付などの手続きを受ければ、軽油引取税（1リットル当たり32.1円）が免税になります！

対象者 林業者等（林業を営む者、前年度の素材生産量が1,000m³以上の素材生産業を営む者）、木材加工業者、木材市場業者、バーク堆肥製造業者

対象用途 林業： 林業又は素材生産業で使用する製材機、集材機、積込機、可搬式チップ製造機の動力源のための軽油
木材加工業・木材市場業： 事業場内で木材の積卸しに使用するフォークリフト、フォークローダ等の動力源のための軽油
バーク堆肥製造業： 事業場内で堆肥の製造工程または堆肥やその原材料の積卸し運搬に使用するショベルローダ等の動力源のための軽油

対象期間 令和6年3月31日まで



林業、木材産業事業者向け 生産性向上のために機械を購入したい

個人事業主（林業者含む）や資本金1億円以下の法人等の方々が、高性能林業機械や木材加工機械等を購入した場合、通常の減価償却に加え30%を特別償却、または取得額の7%の税額控除※をうけることができます！【中小企業投資促進税制】（所得税・法人税の特例）

※ 資本金又は出資金が3千万円を超える中小企業者は対象外となります。

対象者 青色申告書を提出する中小企業者、中小事業者、農業協同組合等（森林組合、森林組合連合会、中小企業等協同組合等を含む）

対象用途 機械及び装置、測定工具及び検査工具、ソフトウェア、貨物自動車等

対象期間 令和5年3月31日まで
（令和5年度税制改正大綱において、2年間の延長が閣議決定されました）



上記の事例を含めた林業・木材産業関係税制の詳細につきましては、次のリンクをご覧ください。

農林水産省ホームページ <https://www.maff.go.jp/j/aid/zeisei/rin/index.html>

林野庁ホームページ https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/kinyu/index.html#ringyou_zeisei

お問合せ先：林野庁 企画課 税制班（TEL：03-3502-8037）